資料２

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。
○今後、**関係機関が連携**し、**ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約１，８４０億円

■ 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生

→ 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- **国・県管理河川の堤防決壊**箇所等、被災した河川管理施設の**「災害復旧」の推進**
- 現在　実施中の「堤防整備」等の早期完成
- 「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている**「河川の水位を低下させる対策」**等の順次検討・着手
- **本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」**、「準用河川」の整備促進
- 内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- 既存ダムの洪水調節機能強化

98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進
施設整備計画を踏まえた避難計画　等

【ソフト対策】

②減災型都市計画の展開

■ 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- 浸水リスクを考慮した**「立地適正化計画」**の展開
- 支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- 「特定都市河川」制度に準じた流域対策（例:**雨水貯留施設**等）
- 高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定

下水道事業による雨水貯留施設の例（郡山市）

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

■本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- 支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- 浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- 危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- 県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

■本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- **本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」**の設置等
- 本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定

本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、ﾏｽﾒﾃﾞｨｱと連携した情報発信　等

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

■全体事業費　約1，840億円

■事業種別

○改良復旧事業

国：阿武隈川上流（福島県内）
　全体事業費　約999億円
　事業期間　令和元年度～令和10年度

国：阿武隈川下流（宮城県内）
　全体事業費　約215億円
　事業期間　令和元年度～令和6年度

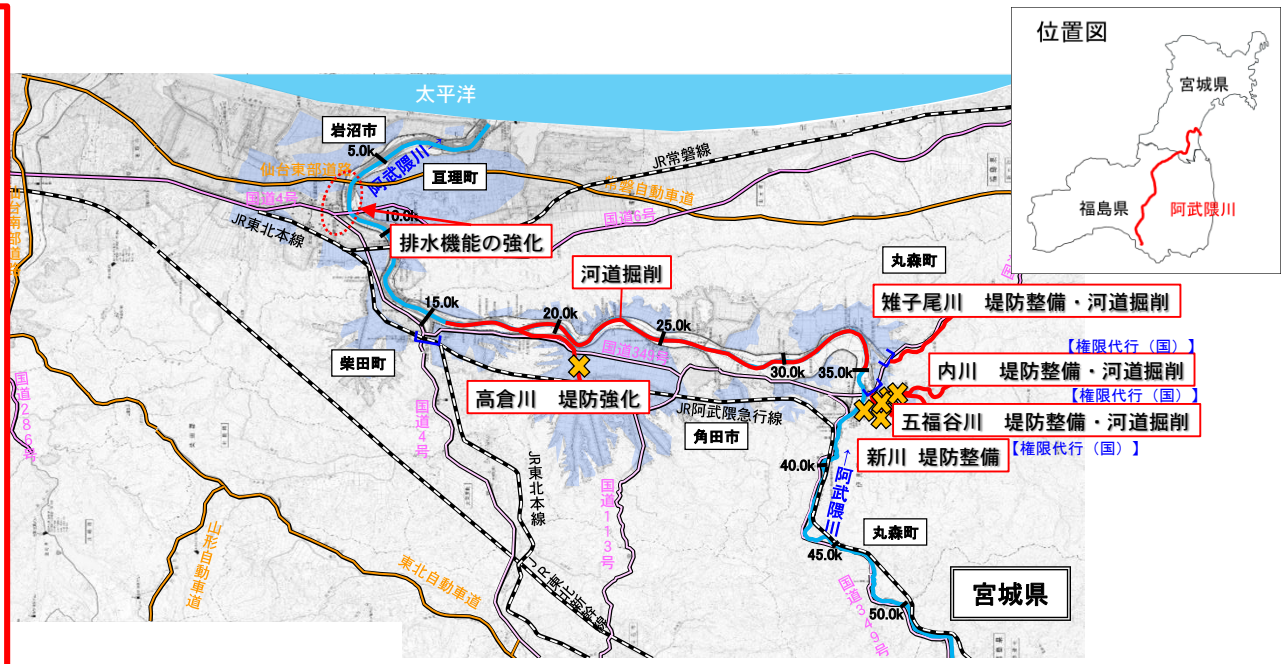
福島県：　約　66億円
宮城県：　約　18億円

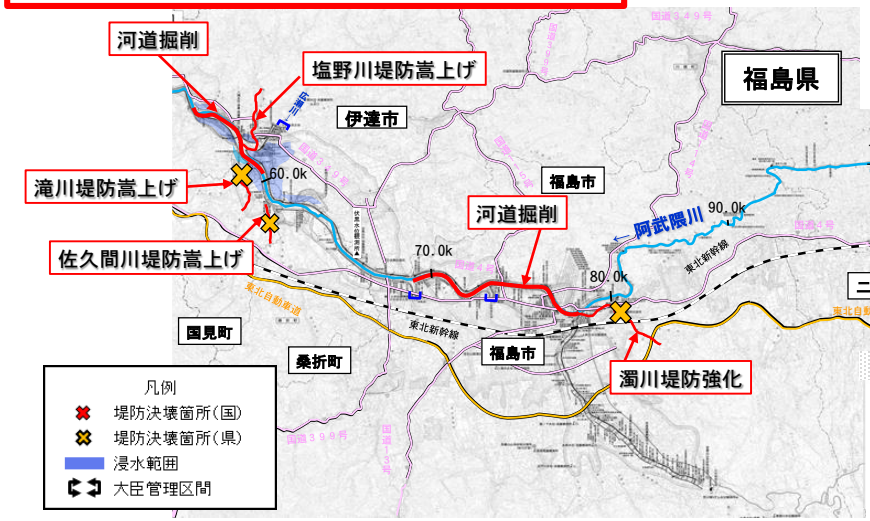
○災害復旧事業

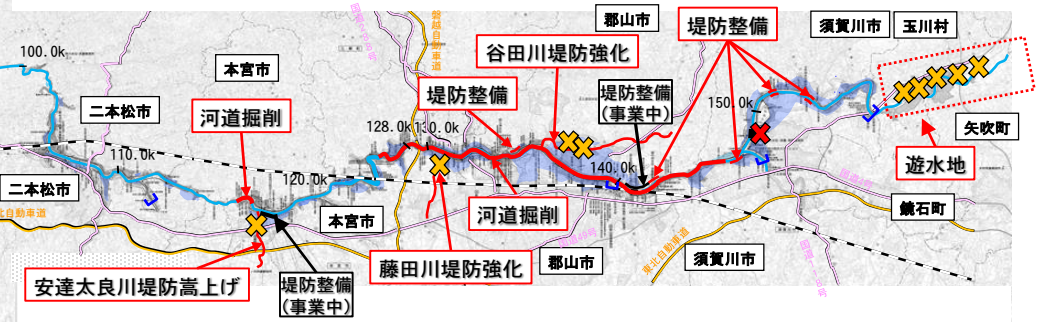
国：阿武隈川上流（福島県内）
　全体事業費　約130億円
　事業期間　令和元年度～令和2年度

国：阿武隈川下流（宮城県内）
　全体事業費　約　99億円
　事業期間　令和元年度～令和2年度

福島県：　約268億円
宮城県：　約　44億円







※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

【一覧表】

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表
～ハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策～

①河川における治水対策の推進

主な取組メニュー	主な取組項目	対策メニュー	実施主体	直ちに検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね1年）	短期的に検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね10年）	持続して検討、必要な対策を調整のうえ実施
国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進	堤防、護岸、樋門、床固工等の被災施設の復旧		国、県	■		
現在実施中の「堤防整備」等の早期完成	堤防整備		国、県	■	■	
「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手	「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の推進	河道掘削	国	■	■	
		樹木伐採	国	■	■	
		堤防強化	国	■	■	
	「福島県豪雨対策緊急河川整備事業」の推進	河道掘削	県	■	■	
		樹木伐採	県	■	■	
	河川大規模災害関連事業の着手	河道掘削	国	■	■	■
		橋梁架替	国	■	■	■
		遊水地整備	国	■	■	■
本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進	本川の背水影響が及ぶ支川等の堤防強化		県	■	■	■
	準用河川の整備促進		市町村	■	■	■
内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」	樋管等の無動力化		国・県	■	■	■
	排水機場の耐水化		国	■	■	■
	排水機場の電源二重化		国	■		
	排水ポンプ車の購入		市町村	■	■	■
既存ダムの洪水調節機能強化			国・県	■	■	■

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表
～ハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策～

②減災型都市計画の展開

主な取組メニュー	主な取組項目	対策メニュー	実施主体	直ちに検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね1年）	短期的に検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね10年）	持続して検討、必要な対策を調整のうえ実施
浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開	浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定		市町村	■	■	
支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成	浸水想定区域図の作成		県	■	■	
	内水ハザードマップの作成		市町村	■	■	
	複合的なハザードマップの作成		市町村		■	■
「特定都市河川」制度に準じた流域対策	雨水貯留施設の整備		市町村	■	■	■
高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定	災害危険区域の指定		市町村		■	■

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表
～ハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策～

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

主な取組メニュー	主な取組項目	対策メニュー	実施主体	直ちに検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね1年）	短期的に検討、必要な対策を調整のうえ実施	持続して検討、必要な対策を調整のうえ実施（概ね10年）
支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良	「詳細版タイムライン」の整備		国・県・市町村	■	■	
	中小河川や内水も考慮したタイムラインの策定		国・県・市町村		■	■
浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施	「町内会版タイムライン」の策定		市町村	■	■	
	「町内会版タイムライン」の説明・訓練実施		市町村	■	■	■
マイ・タイムラインにおける「住民一人ひとりのタイムライン」の普及・促進の実施	マイ・タイムライン作成支援（ワークショップ）		市町村	■	■	
まるごとまちごとハザードマップにおける「地域住民への洪水情報」の普及	まるごとまちごとハザードマップの作成支援		国・県・市町村	■	■	
	地域住民による避難ルート、危険箇所の確認		市町村	■	■	■
危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築	危機管理型水位計の水位に対応した地区ごとの避難体制を順次検討・構築		国・県・市町村	■	■	
県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表	水位周知河川における洪水浸水想定区域の作成・公表		県	■	■	
	ダム下流等の洪水浸水想定区域図の作成・公表		国	■		

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表
～ハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策～

④バックウオーターも考慮した危機管理対策の推進

主な取組メニュー	主な取組項目	対策メニュー	実施主体	概ね1年 直ちに検討、必要な対策を調整のうえ実施	概ね10年 短期的に検討、必要な対策を調整のうえ実施	持続して検討、必要な対策を調整のうえ実施
本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等	本川の背水影響が及ぶ区間に危機管理型水位計を新設		国・県			
本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定	危機管理型水位計の水位と連動した避難計画を策定		国・県・市町村			

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト　一覧表
～ハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策～

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み（代表事例）

主な取組メニュー	主な取組項目	対策メニュー	実施主体	概ね1年 直ちに検討、必要な対策を調整のうえ実施	概ね10年 短期的に検討、必要な対策を調整のうえ実施	持続して検討、必要な対策を調整のうえ実施
地域の特性等を踏まえた各種減災対策を推進	流出抑制・氾濫抑制の取組	公共施設への貯留施設設置等	市町村	■	■	■
	災害時情報伝達手段の充実	防災行政無線設備の強化等	市町村	■	■	■
	自主防災組織の設置促進と人材育成	自主防災組織設置や地区防災計画の策定支援等	市町村	■	■	■
		防災に関する講習会の開催等	市町村	■	■	■
		防災指導員等の育成・増員	県市町村	■	■	■
	住民参加型による防災訓練の実施		市町村	■	■	■
	マスメディアと連携した情報発信		国・県 市町村	■	■	■

阿武隈川水系における

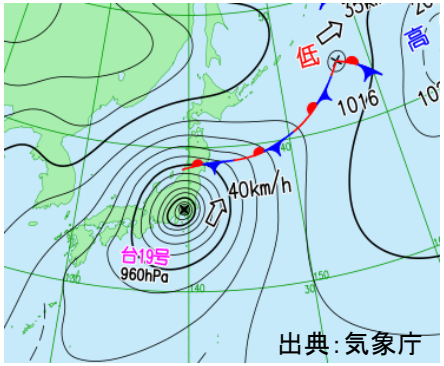
令和元年台風第１９号に伴う出水概要

令和元年台風第19号に伴う降雨の概要

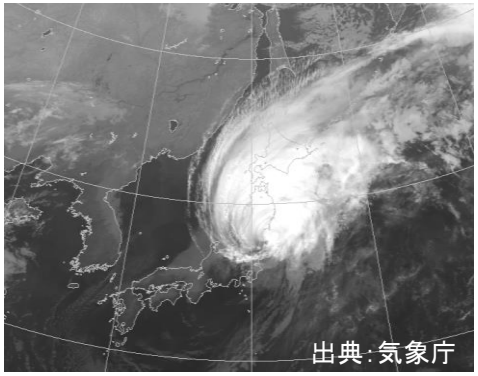
・令和元年台風第19号に伴う降雨では、阿武隈川流域全域にわたり平均253mmの雨が激しく降り、戦後最大であった昭和61年（8.5洪水）や平成の大改修の契機となった平成10年（8.27洪水）を上回る雨量が観測された記録的な降雨であった。

天気図と気象衛星画像

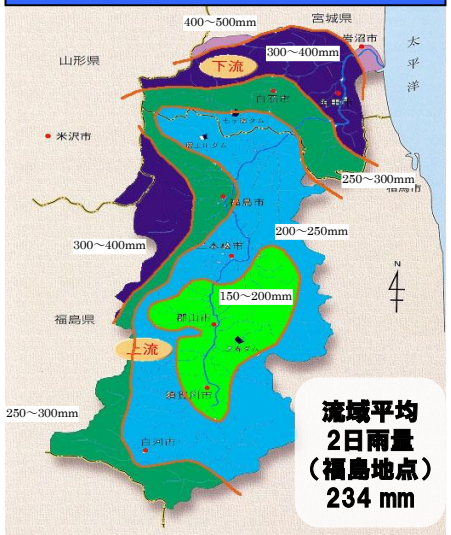
天気図（10月12日21時頃）



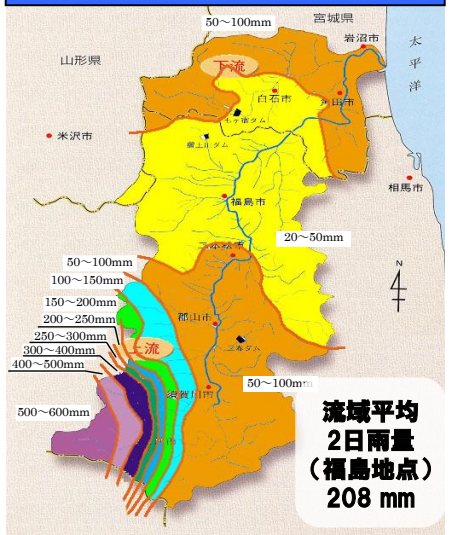
気象衛星画像（10月13日1時頃）



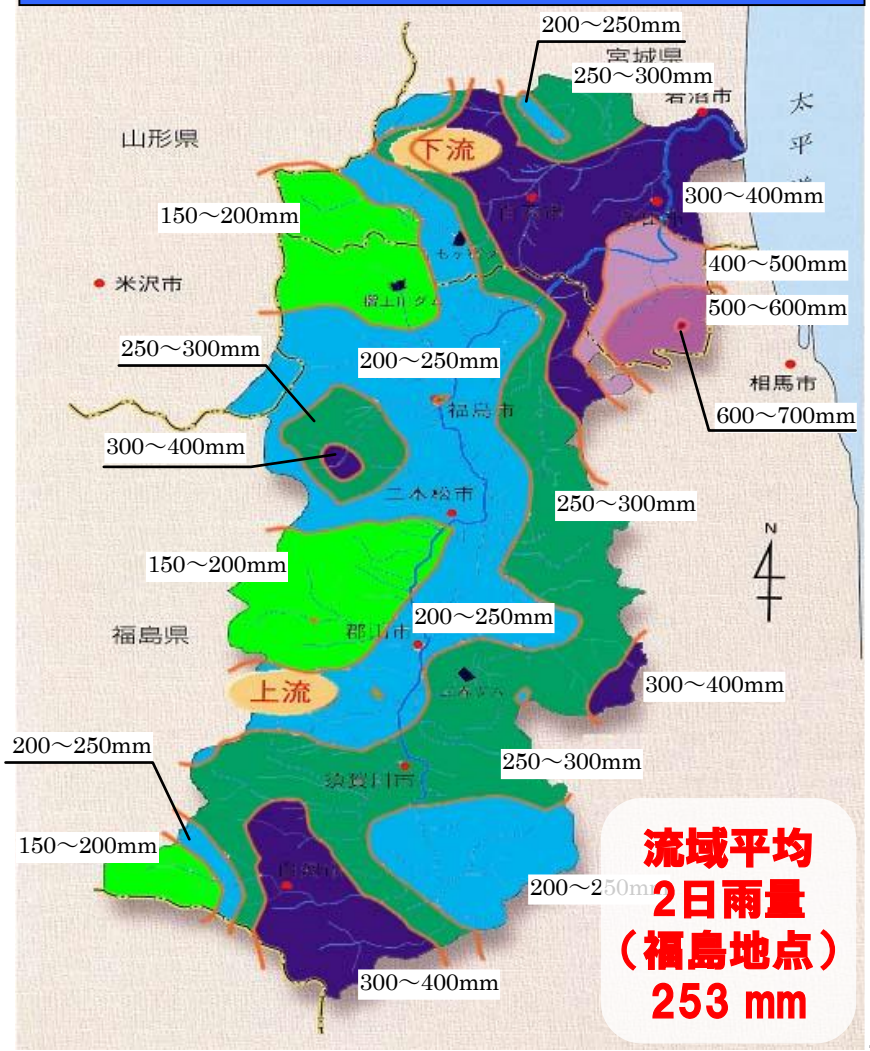
昭和61年8月洪水



平成10年8月洪水



【令和元年台風第19号】



令和元年台風第19号に伴う出水時の水位状況

- 阿武隈川および荒川について、**基準観測所10箇所中9箇所で既往最高水位を観測**。
- 基準観測所10箇所中9箇所ではん濫危険水位を超過し、特に**本宮・阿久津（郡山市）・須賀川地点においては、計画高水位※を超過**。

※ 河川管理上の基準とする水位の一つであり、この水位以下で計画高水流量を安全に流下させることができるようにする河川整備や、橋梁などの許可工作物設置に際して考慮すべき基準の一つとなるもの

【福島県側】

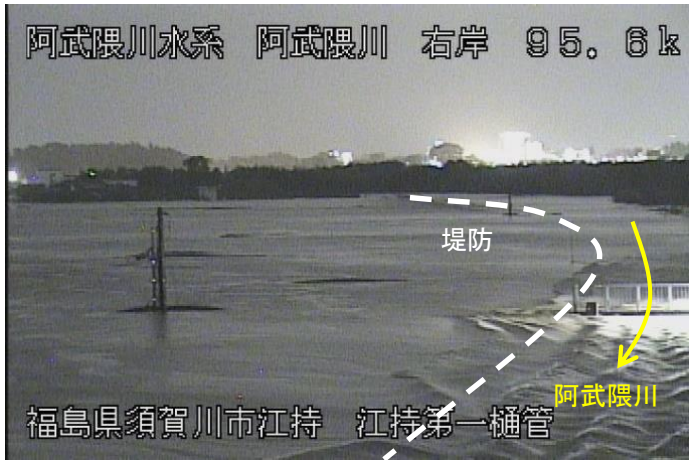
観測所名	伏黒	福島	二本松	本宮	阿久津	須賀川	八木田
読み	ふしぐろ	ふくしま	にほんまつ	もとみや	あくつ	すかがわ	やぎた
水系名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
河川名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	荒川
位置	右66.10K	左77.10K	右106.60K	左118.10K	右133.60K	左147.90K	左1.40K
計画高水位	7.27	6.56	13.18	9.29	8.68	7.99	3.46
所在地	福島県伊達市伏黒	福島県福島市杉妻町	福島県二本松市安達ヶ原	福島県本宮市大字下町	福島県郡山市大字阿久津	福島県須賀川市大字江持	福島県福島市須川町
計画高水位	7.27	6.56	13.18	9.29	8.68	7.99	3.46
はん濫危険水位	5.00	5.40	10.40	7.90	7.90	7.70	2.00
避難判断水位	4.50	5.10	10.10	6.30	6.80	7.10	1.30
はん濫注意水位	4.00	4.00	6.50	5.00	5.50	4.50	1.20
水防団待機水位	3.00	3.00	5.50	4.00	4.00	3.50	0.50
既往最高	昭和23年9月17日	昭和61年8月5日	平成23年9月22日	昭和16年7月23日	平成23年9月21日	昭和16年7月23日	平成1年8月6日
	6.00	5.90	11.57	9.63	9.20	9.00	2.50
R1.10.12洪水	令和元年10月13日 1:30	令和元年10月13日 3:20	令和元年10月13日 4:50	令和元年10月13日 2:10	令和元年10月13日 1:30	令和元年10月13日 7:20	令和元年10月12日 23:10
	6.34	6.43	12.80	9.73	**10.01**	**9.61**	2.55
	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位
				計画高水位を44cm超過	計画高水位を133cm超過	計画高水位を162cm超過	

※ 10月14日時点の10分データでの整理

【宮城県側】

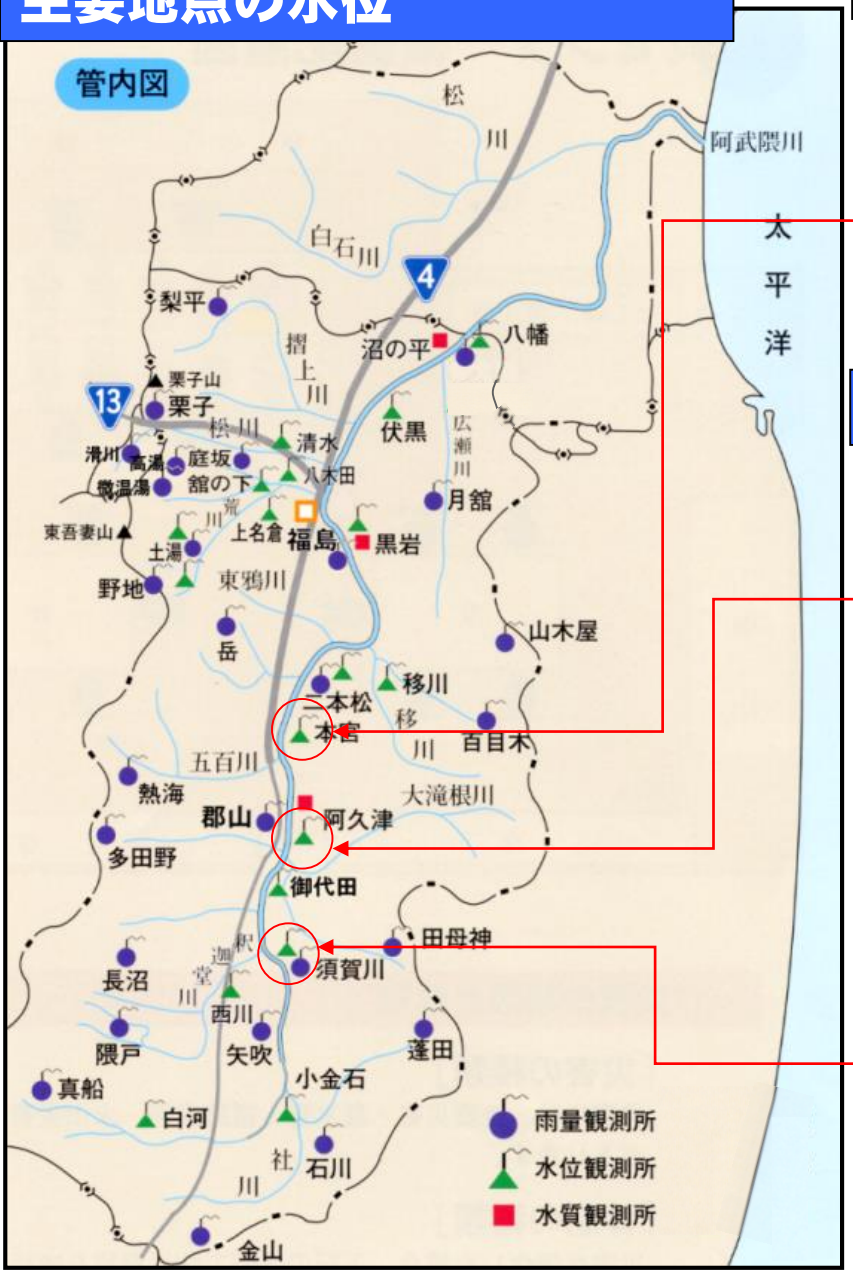
観測所名	丸森	笠松	岩沼
読み	まるもり	かさまつ	いわぬま
水系名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
河川名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
位置	右37.20k	右28.10k	左8.10k
計画高水位	23.70	17.99	8.25
所在地	宮城県伊具郡丸森町船場	宮城県角田市枝野寄井	宮城県岩沼市阿武隈
計画高水位	23.70	17.99	8.25
はん濫危険水位	22.30	17.00	8.20
避難判断水位	22.00	16.60	7.90
はん濫注意水位	19.50	14.50	5.00
水防団待機水位	18.00	13.00	4.00
既往最高	昭和16年7月23日	昭和61年8月5日	昭和16年7月23日
	22.65	17.10	8.04
R1.10.12洪水	令和元年10月13日 4：40	令和元年10月13日 5：00	令和元年10月13日 6：00
	23.49	17.48	7.17
	既往１位	既往１位	既往６位

【須賀川市】江持第一樋管（95.6k付近）

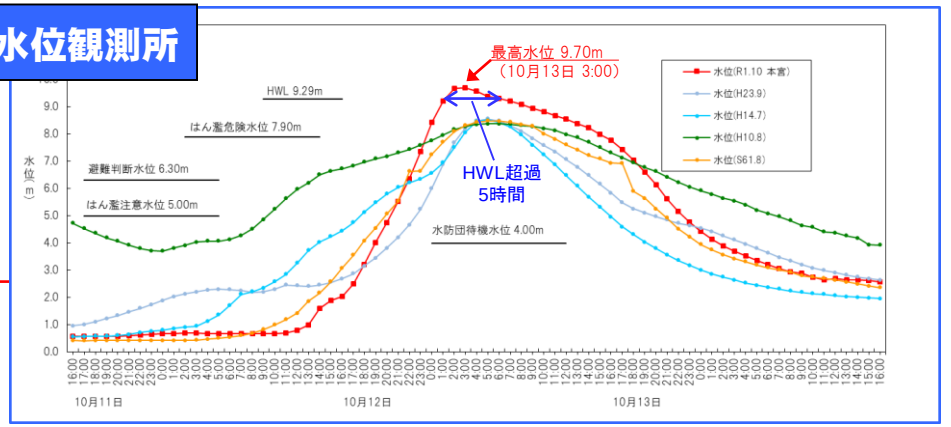


令和元年台風第19号に伴う出水時の水位状況１（上流）

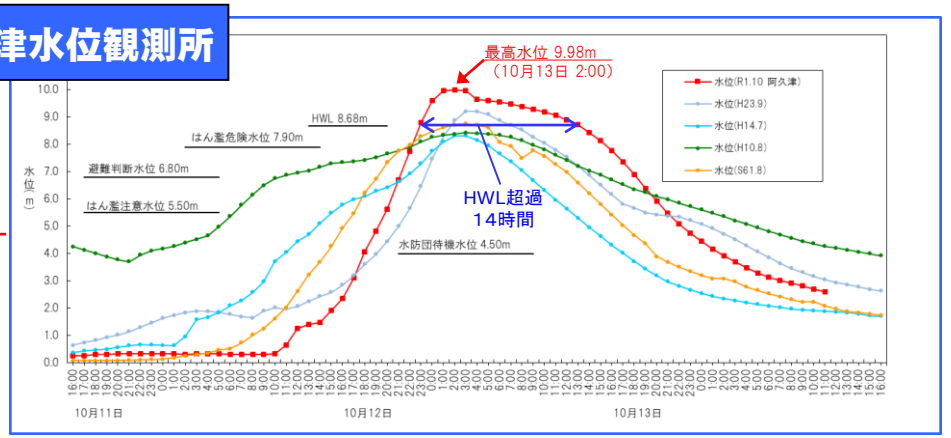
主要地点の水位



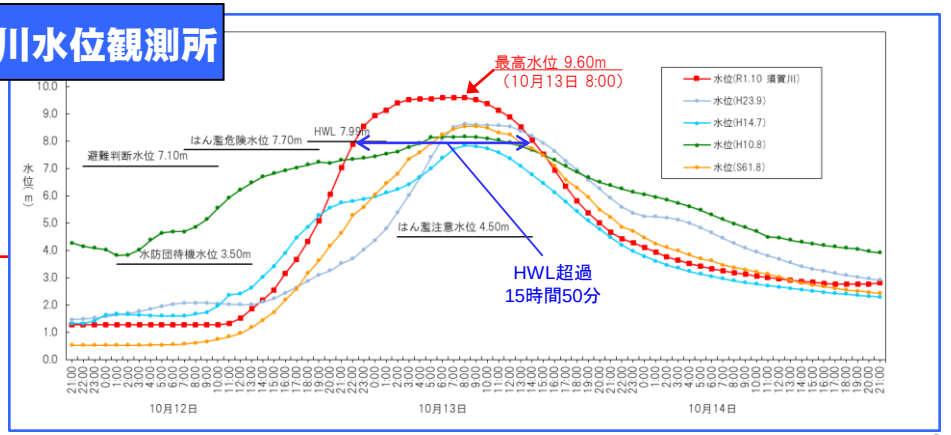
本宮水位観測所



阿久津水位観測所



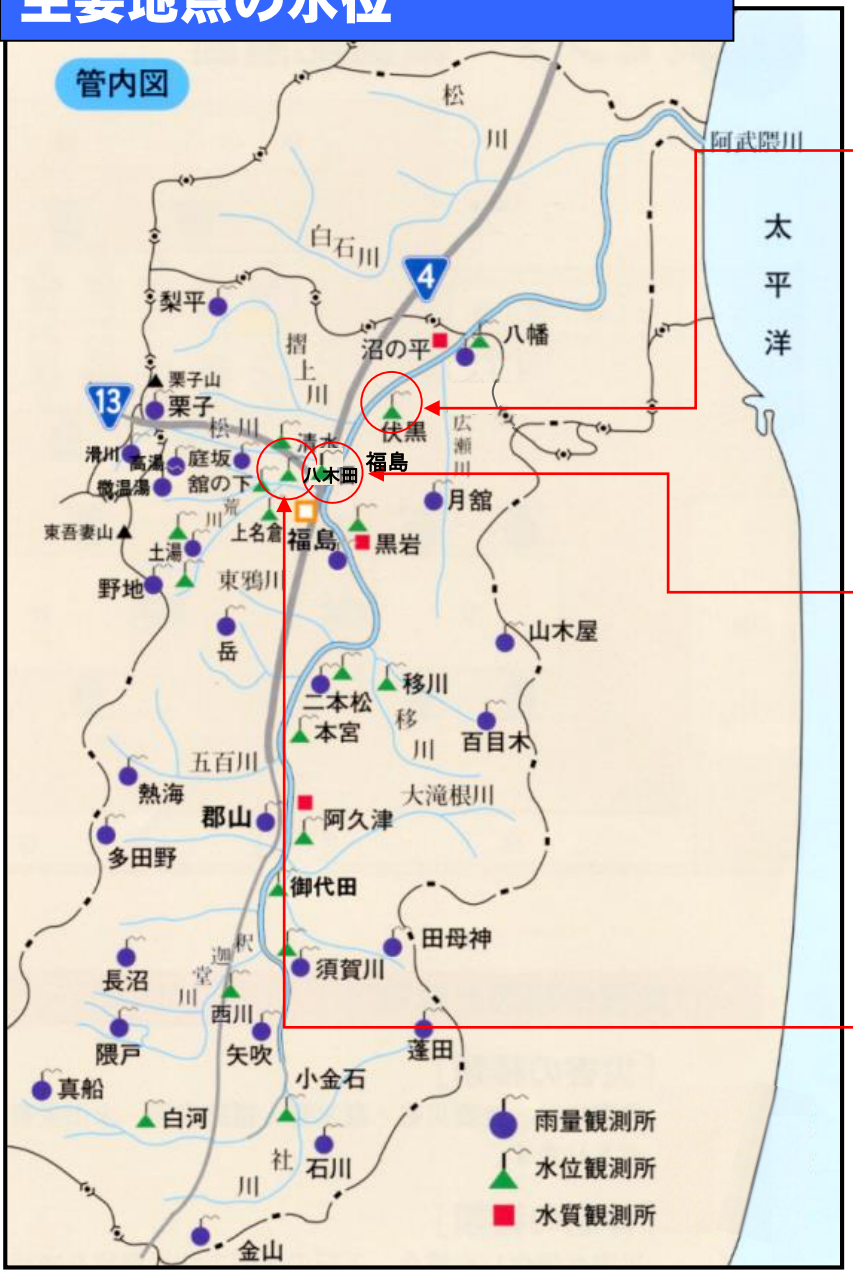
須賀川水位観測所



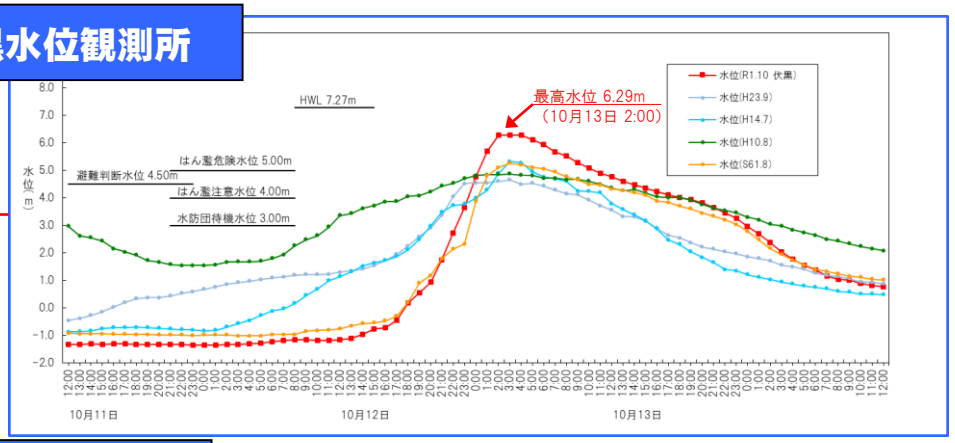
※1時間ごとのデータのため、3ページの10分データの最高水位と時間とは異なる。

令和元年台風第19号に伴う出水時の水位状況２（中流）

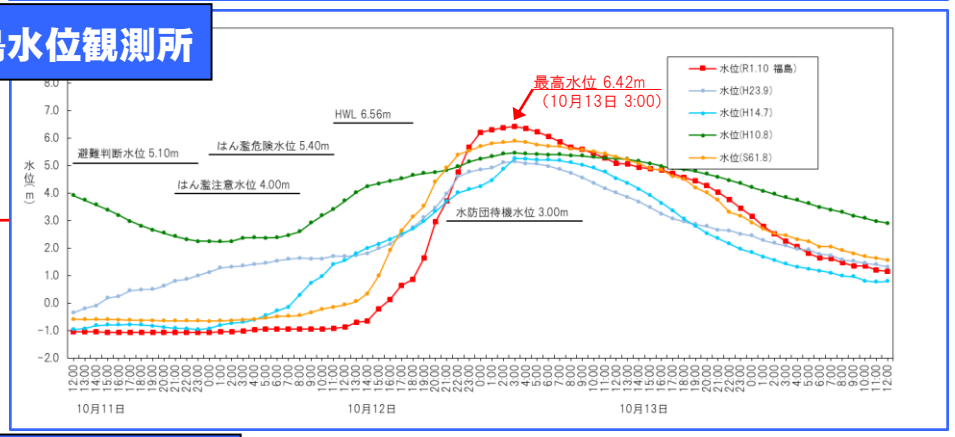
主要地点の水位



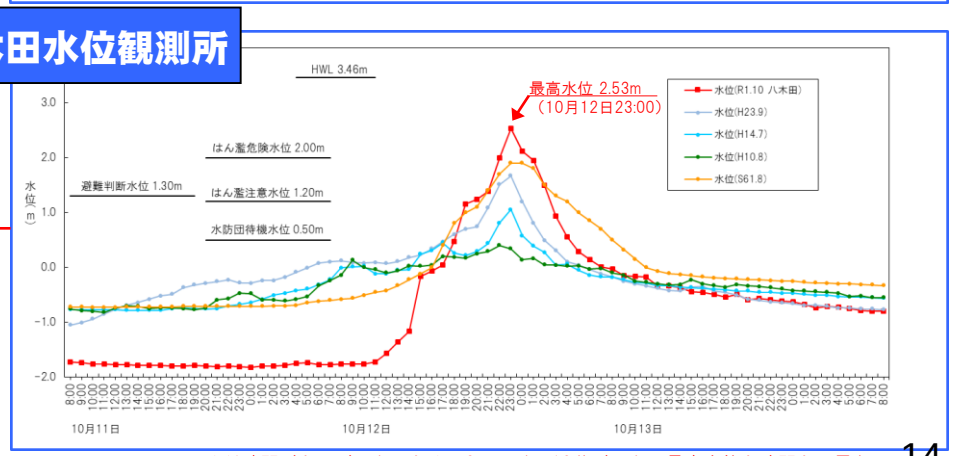
伏黒水位観測所



福島水位観測所



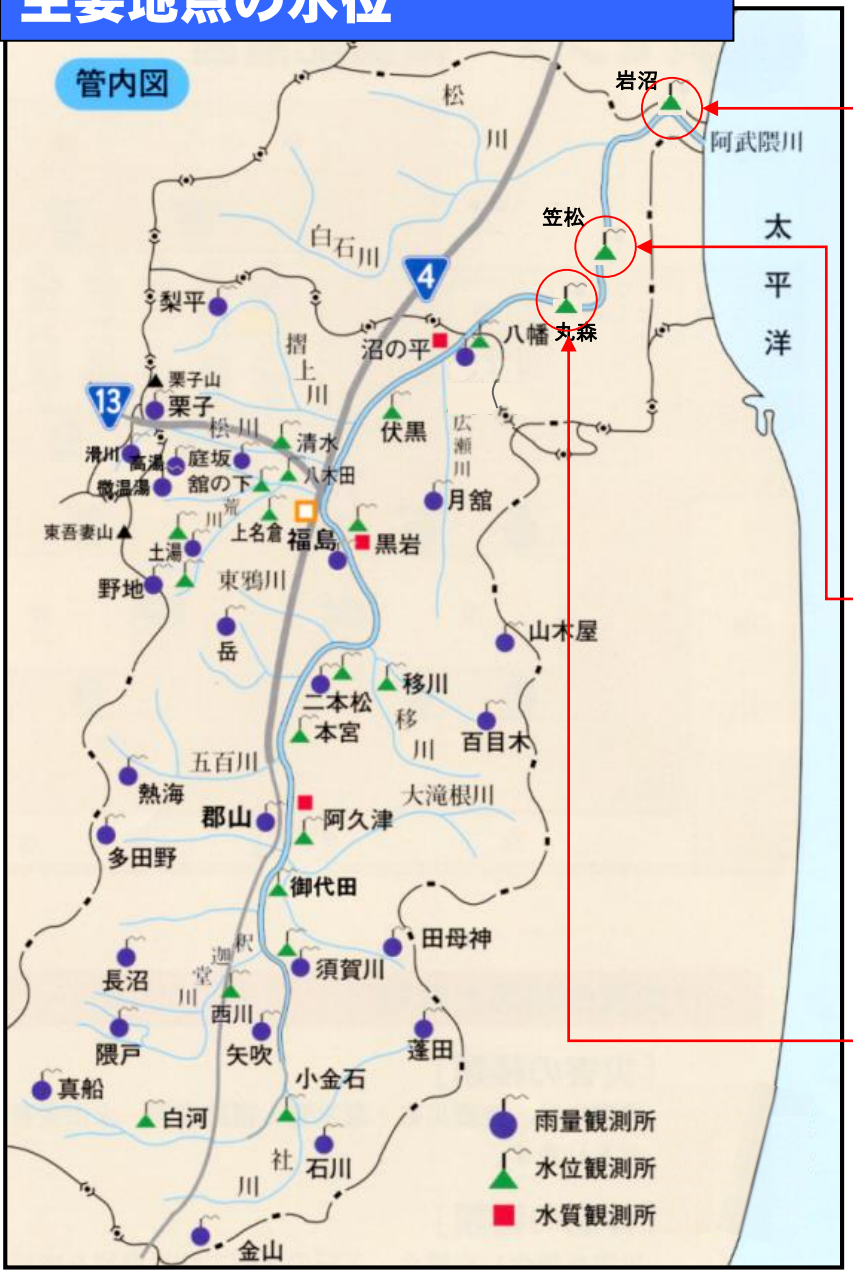
八木田水位観測所



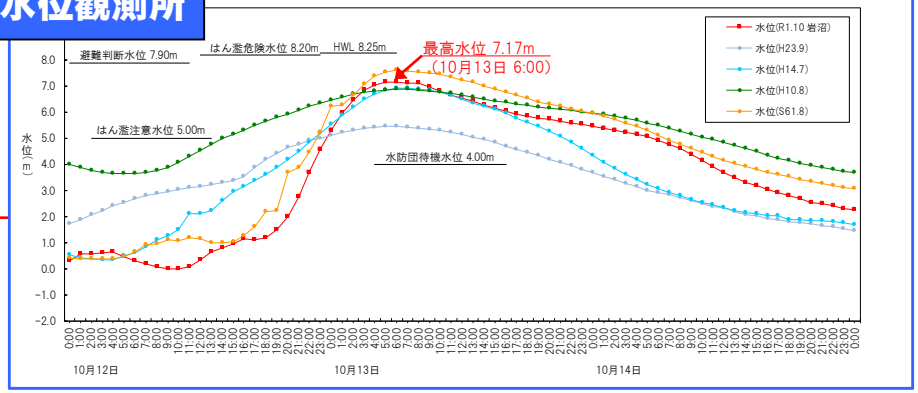
※1時間ごとのデータのため、3ページの10分データの最高水位と時間とは異なる。

令和元年台風第19号に伴う出水時の水位状況３（下流）

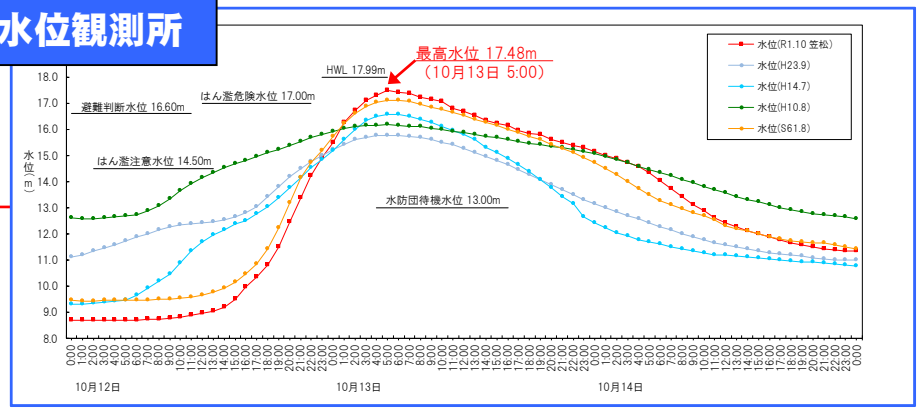
主要地点の水位



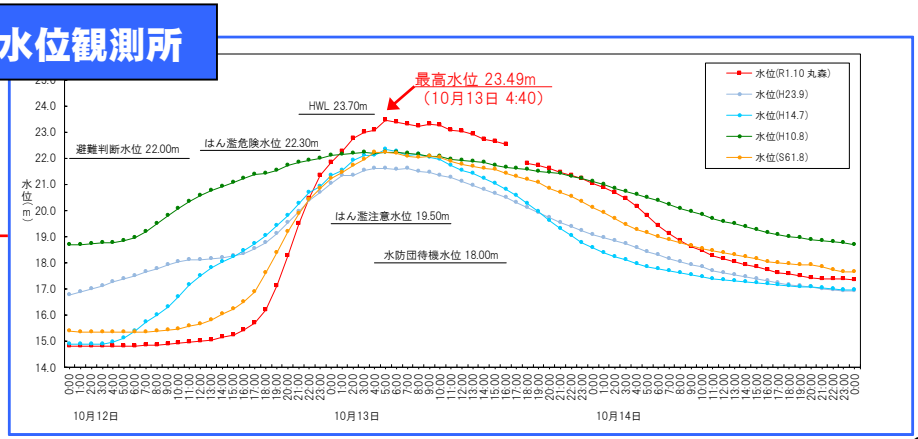
岩沼水位観測所



笠松水位観測所



丸森水位観測所

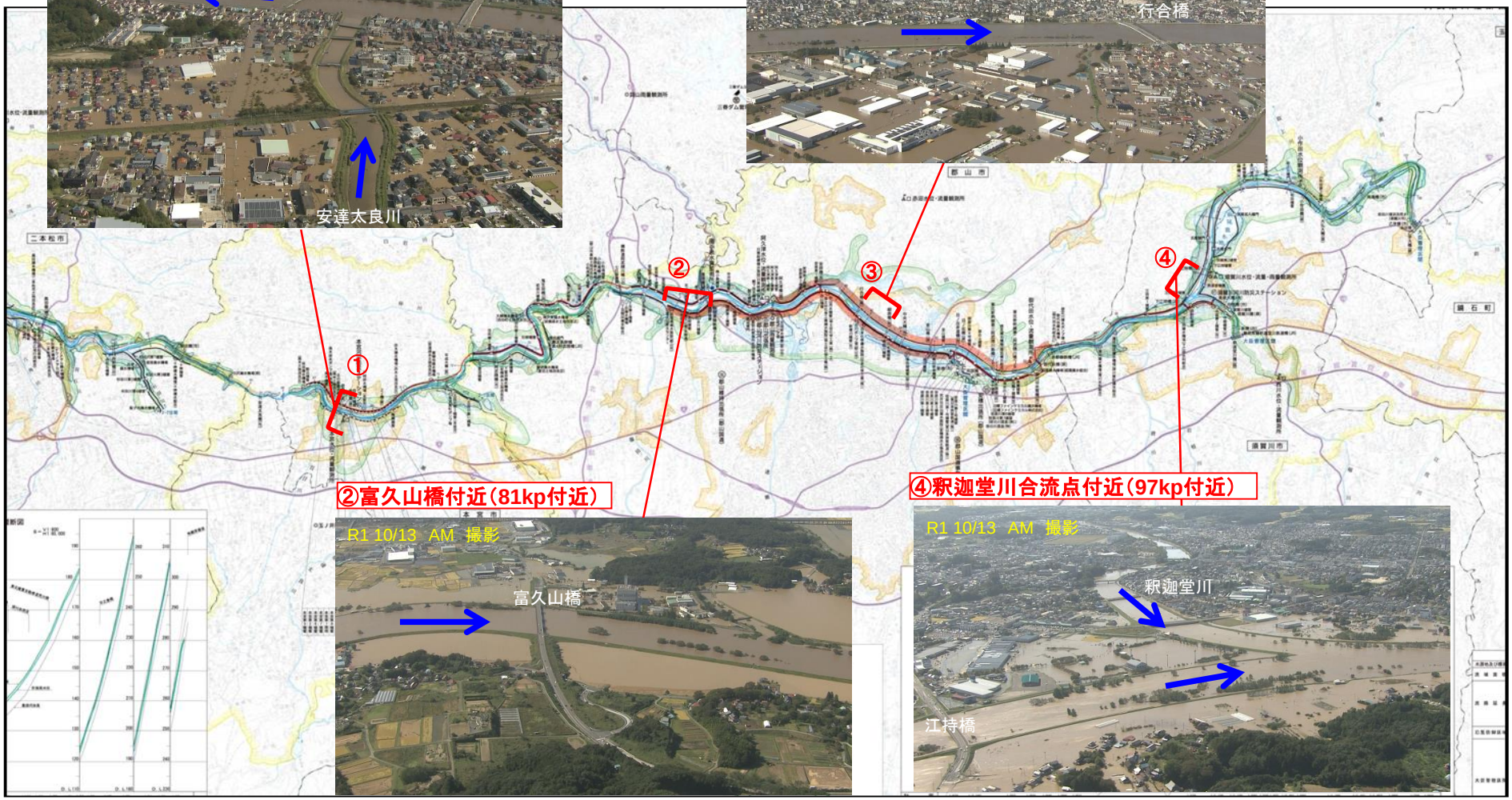


※1時間ごとのデータのため、3ページの10分データの最高水位と時間とは異なる。

令和元年台風第19号に伴う出水後の被害状況１（福島県二本松市～須賀川市）

①安達太良川合流点付近（68kp付近）

③行合橋付近（87kp付近）



②富久山橋付近（81kp付近）

④釈迦堂川合流点付近（97kp付近）

■10/13にドローン・ヘリ，10/14に航空機による状況把握調査等を実施。

令和元年台風第19号に伴う出水後の被害状況２（福島県伊達市～福島市）

①伊達市五十沢付近（4kp付近）

③摺上川合流点付近（19kp付近）

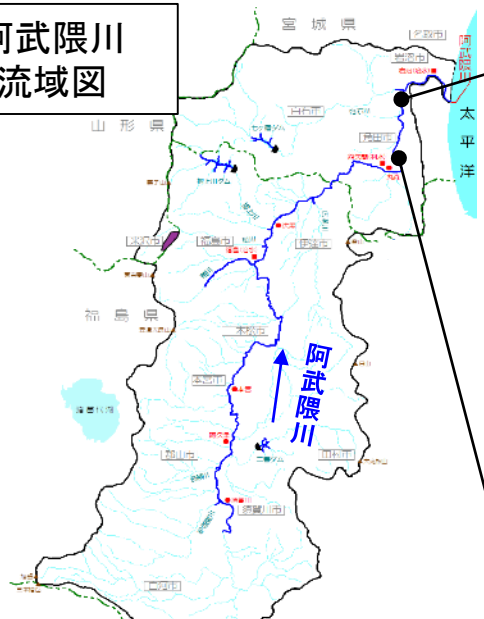
②徳江大橋付近（10kp付近）

④荒川合流点付近（28kp付近）

■10/13にドローン・ヘリ，10/14に航空機による状況把握調査等を実施。

令和元年台風第19号に伴う出水後の被害状況３（宮城県区間）

阿武隈川
流域図



阿武隈川下流　阿武隈橋（8.1k付近）　宮城県岩沼市阿武隈地先

阿武隈川下流　丸森橋（37.2k付近）

平常時　　宮城県伊具郡丸森町船場地先

高水時

※河川監視用カメラより撮影

令和元年台風第19号に伴う出水後の被害状況４（宮城県丸森町）

宮城県丸森町の浸水状況（10月13日撮影）

角田消防署丸森出張所

宮城県丸森町字神明南地内

丸森町役場駐車場

丸森町役場駐車場

令和元年台風第19号に伴う出水後の被害状況５（宮城県丸森町）

※丸森町上空からドローンにて撮影

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

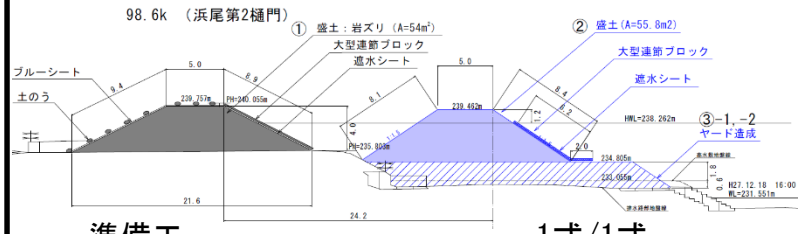
①河川における治水対策の推進

①河川における治水対策の推進

○ 国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進

須賀川市浜尾地区（直轄区間）被災状況

緊急復旧工事概要



準備工	1式/1式
盛土（荒締切）	1,900m3/1,900m3
連節ブロック	545m2/545m2
盛土（仮締切）	8,000m3/8,000m3
連節ブロック	1000m2/1,000m2

10/14（日）15:00着手
10/18（金）荒締切（土堤）完成
11/ 8（金）20:00完了

須賀川市浜尾地区　緊急復旧工事完了状況（11月9日撮影）

○ 有識者からなる「阿武隈川堤防調査委員会」の報告を踏まえ、本復旧を実施

浜尾地区以外の護岸等の被災についても順次災害復旧（計80箇所）を実施

本宮市本宮地先

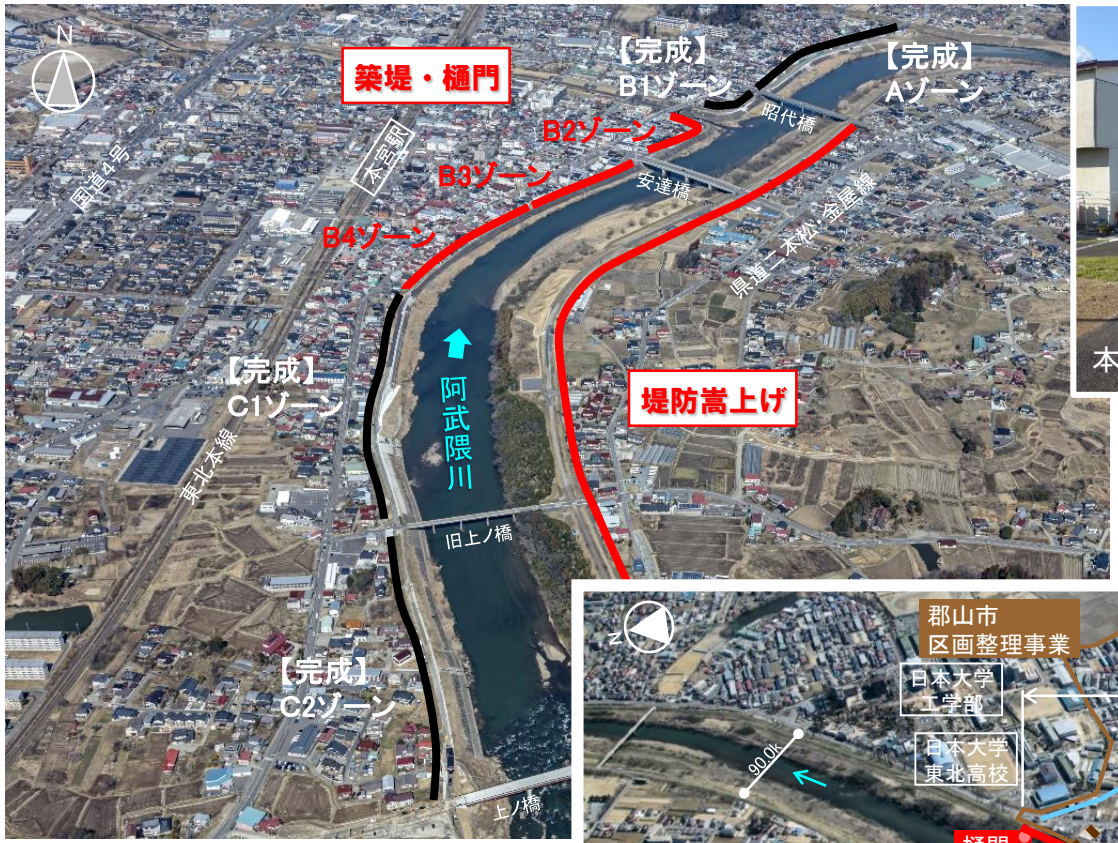
国見町徳江地先

福島市佐原地先

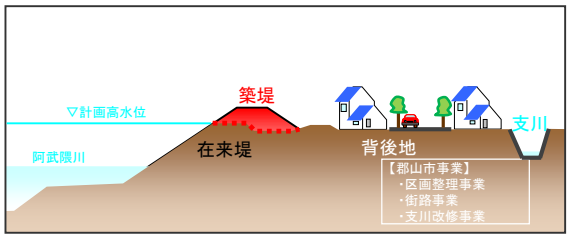
①河川における治水対策の推進

○ 本宮地区（本宮市）・御代田地区（郡山市）の現在実施中の「堤防整備」等の早期完成

【本宮市　本宮左右岸地区 堤防整備（R2完成予定）】



【郡山市　御代田地区 堤防整備（R2完成予定）】

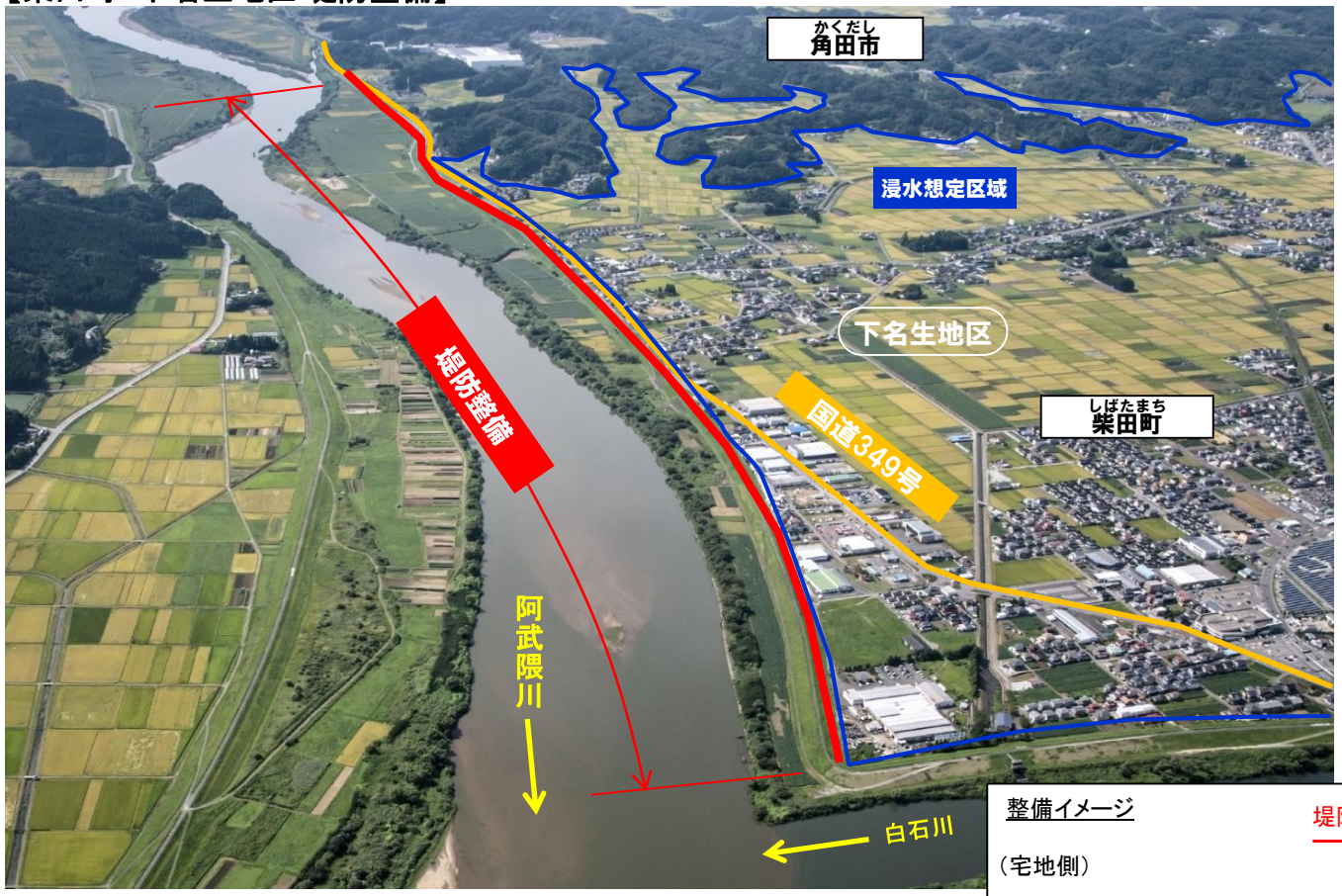


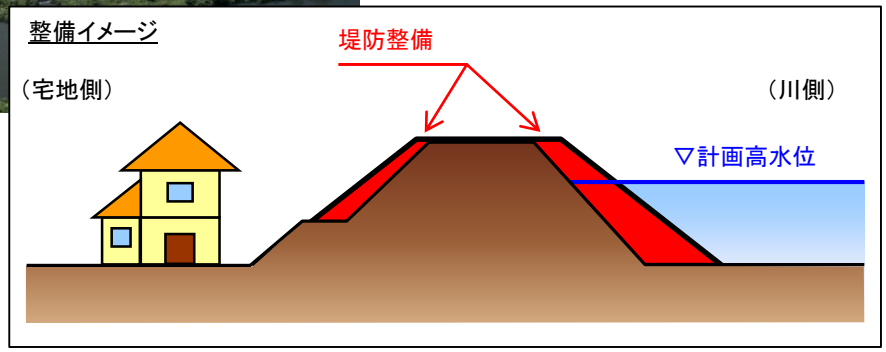
御代田地区・河川改修（堤防整備）のイメージ

①河川における治水対策の推進

○ 下名生地区（柴田町）の現在実施中の「堤防整備」等の早期完成

【柴田町　下名生地区 堤防整備】



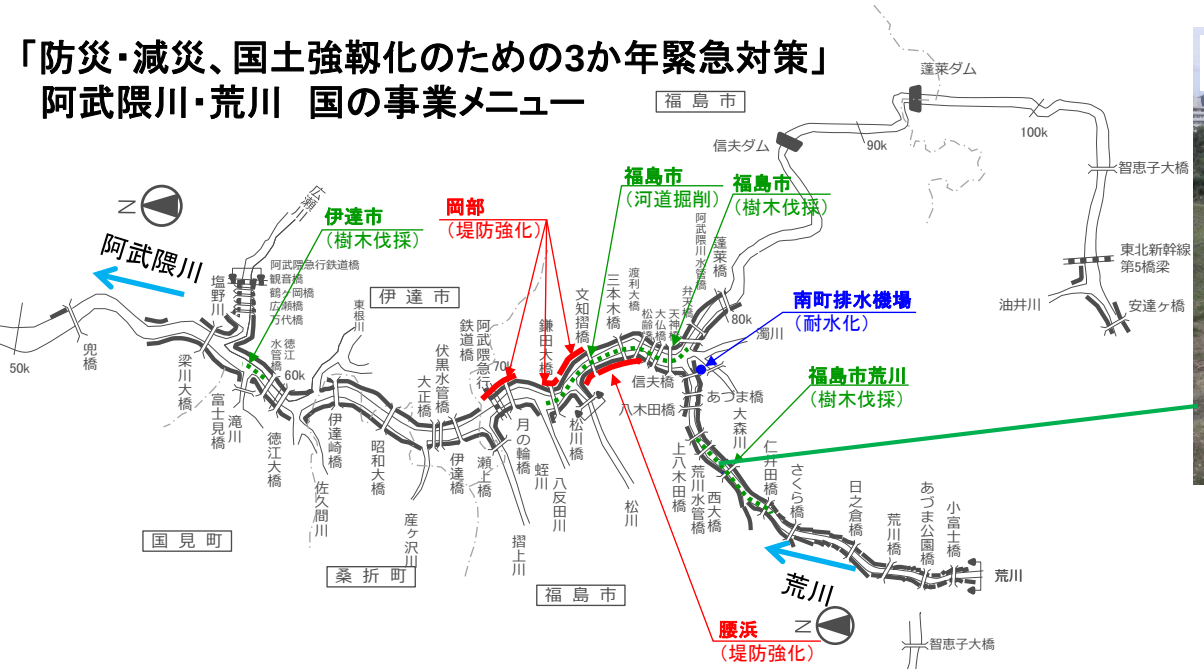


下名生地区・河川改修（堤防整備）のイメージ

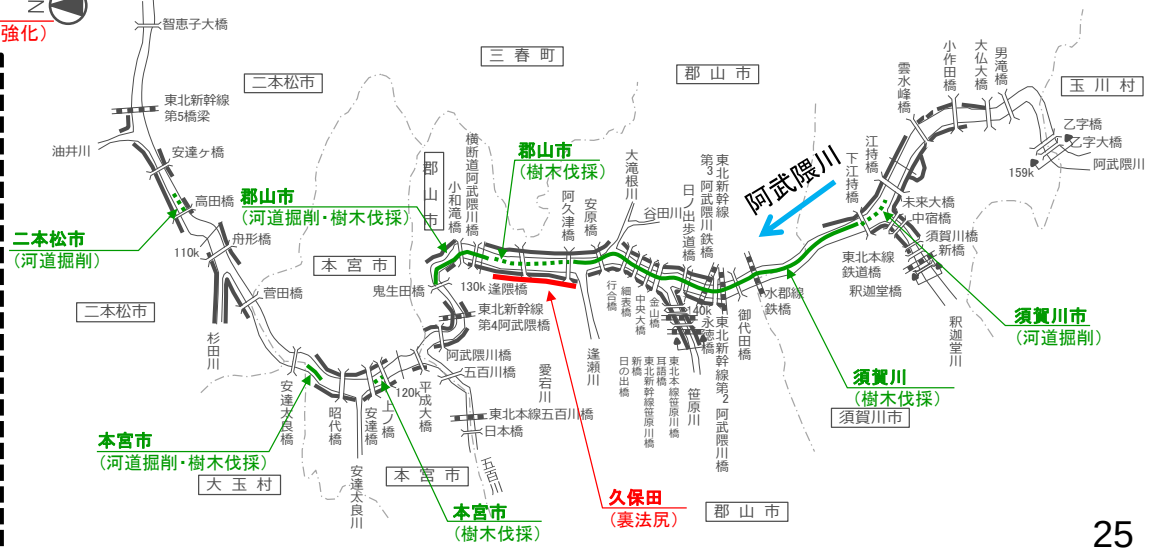
①河川における治水対策の推進

○「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」・「福島県豪雨対策緊急河川整備事業」等として実施している河道掘削（高水敷掘削・中州撤去等）・樹木伐採等の推進

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」 阿武隈川・荒川　国の事業メニュー



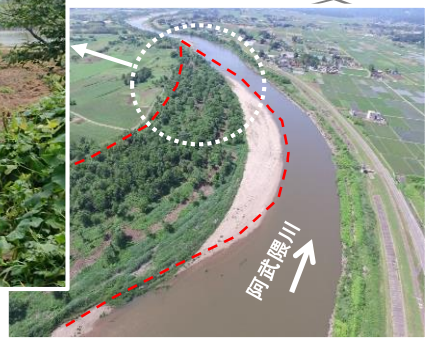
【福島市下野寺地先 樹木伐採（R1.9撮影）】



「福島県豪雨対策緊急河川整備事業」対策例
【二本松市油井地先 河道掘削（R1.7撮影）】

①河川における治水対策の推進

○「防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策」として実施している河道掘削・樹木伐採等の推進



【丸森地区　樹木伐採（R1.7撮影）】

①河川における治水対策の推進

○ 阿武隈川上流　直轄河川大規模災害関連事業の着手

阿武隈川上流　直轄河川大規模災害関連事業

全体事業費	約999億円		
河道掘削	約220万m³	築堤	約400m
橋梁架替	2橋	遊水地群整備	1式
事業期間	令和元年度～令和10年度		

凡　例

- 堤防決壊箇所（国管理）
- 堤防決壊箇所（県管理）
- 堤防・護岸等被災箇所
- 大臣管理区間
- 改良事業箇所（築堤・掘削）
- 改良事業箇所（橋梁架替）
- 遊水地群整備検討箇所

阿武隈川上流　直轄河川災害復旧事業

全体事業費	約121億円		
堤防復旧	8箇所	漏水対策	8箇所
護岸工	47箇所	樋門樋管等復旧	3箇所
床固工補修	14箇所		
事業期間	令和元年～令和2年度		

※直轄河川大規模災害関連事業と一体となって実施

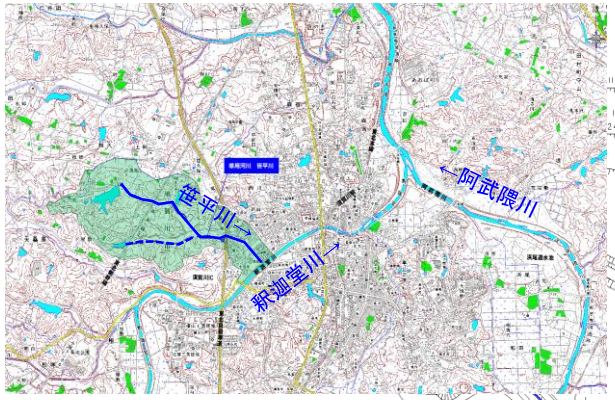
①河川における治水対策の推進

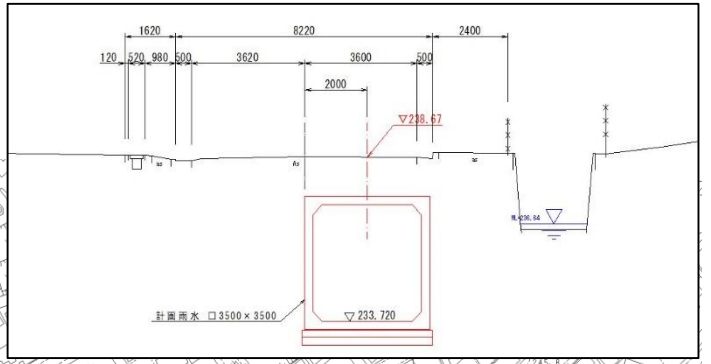
○ 阿武隈川下流　直轄河川大規模災害関連事業の着手

①河川における治水対策の推進

○「準用河川」の整備促進

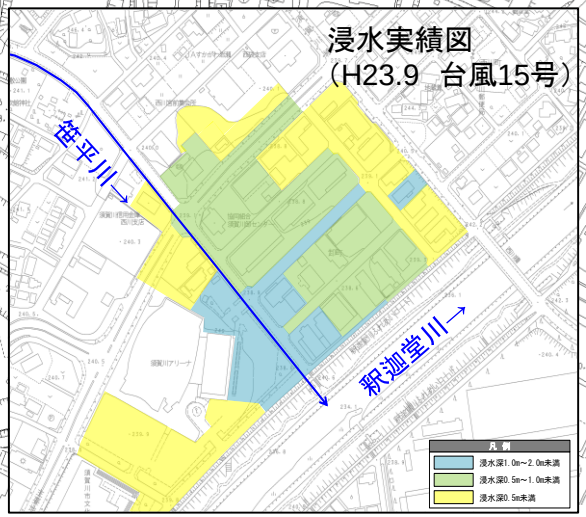
【須賀川市　阿武隈川水系笹平川（ささだいらがわ）　分水路整備の事例】





H23.9台風15号　浸水状況

R1.10台風19号　浸水状況



分水路イメージ

①河川における治水対策の推進

○ 内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」

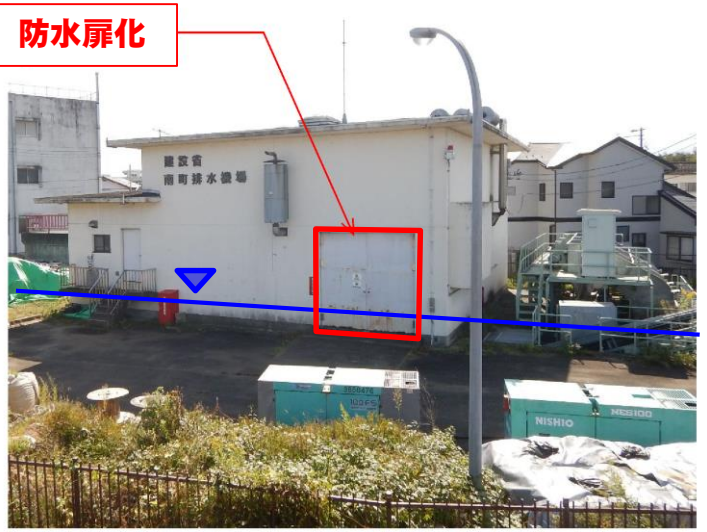
【排水機能の強化の例】

スライドゲート（手動操作）

無動力化

フラップゲート（自動開閉）

【耐水化の例】



防水扉イメージ

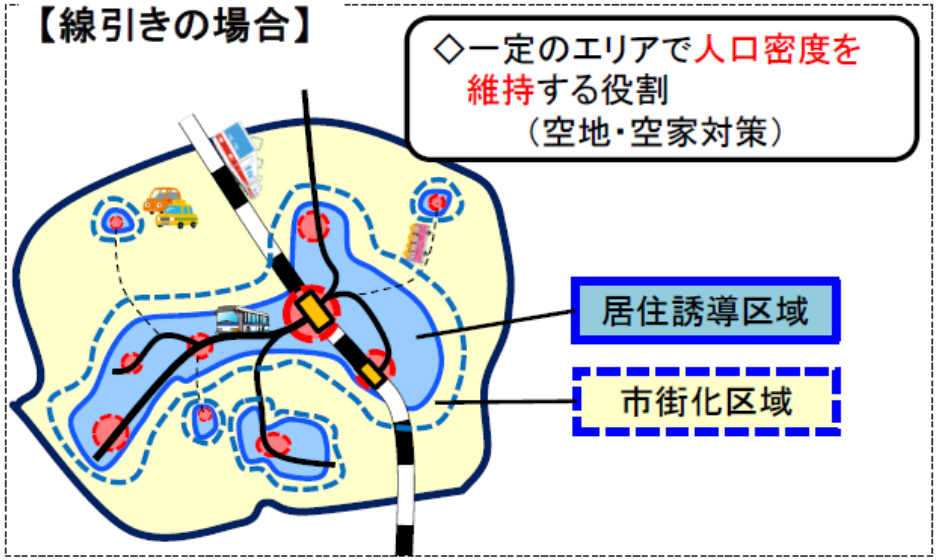
阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

②減災型都市計画の展開

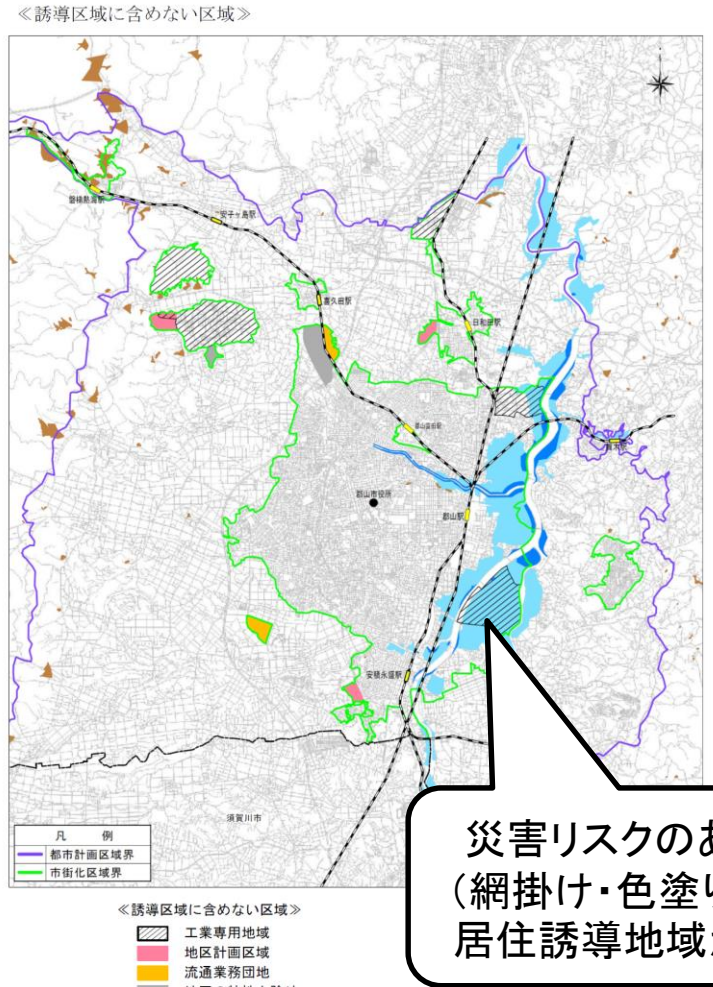
②減災型都市計画の展開

○ 浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開

【立地適正化計画制度における区域指定のイメージ】



【浸水リスクを考慮した立地適正化計画（郡山市）】

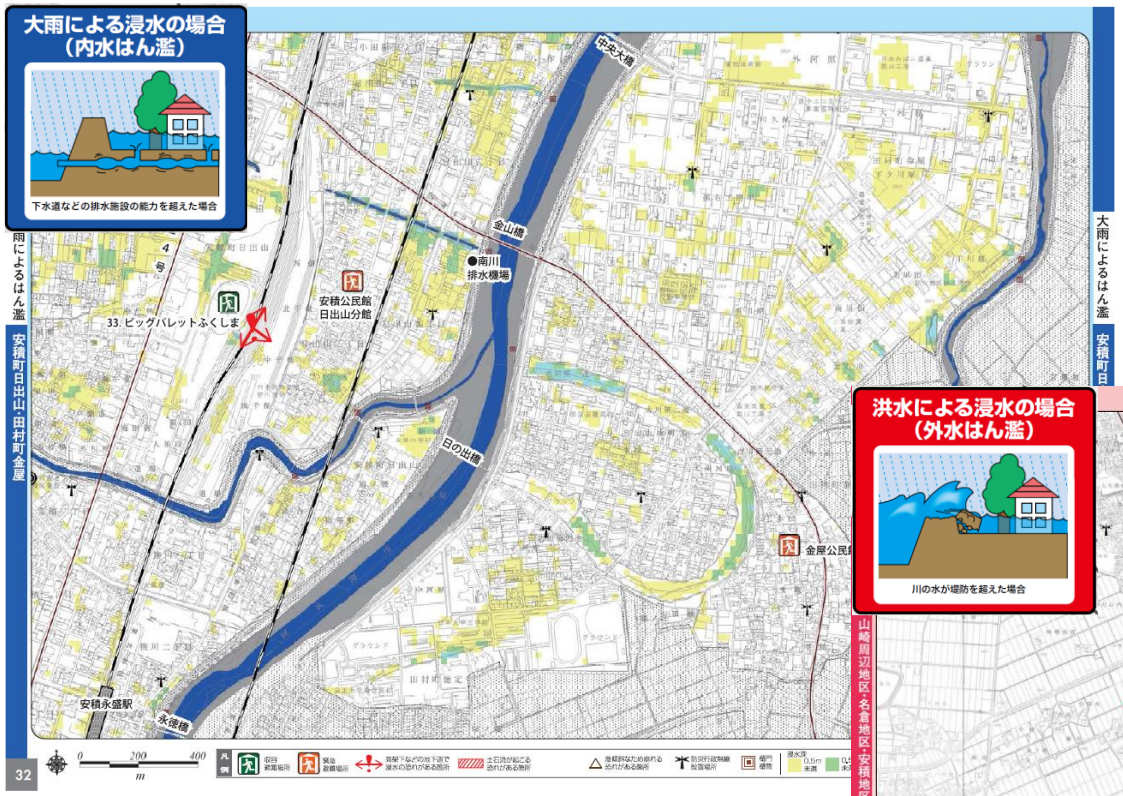


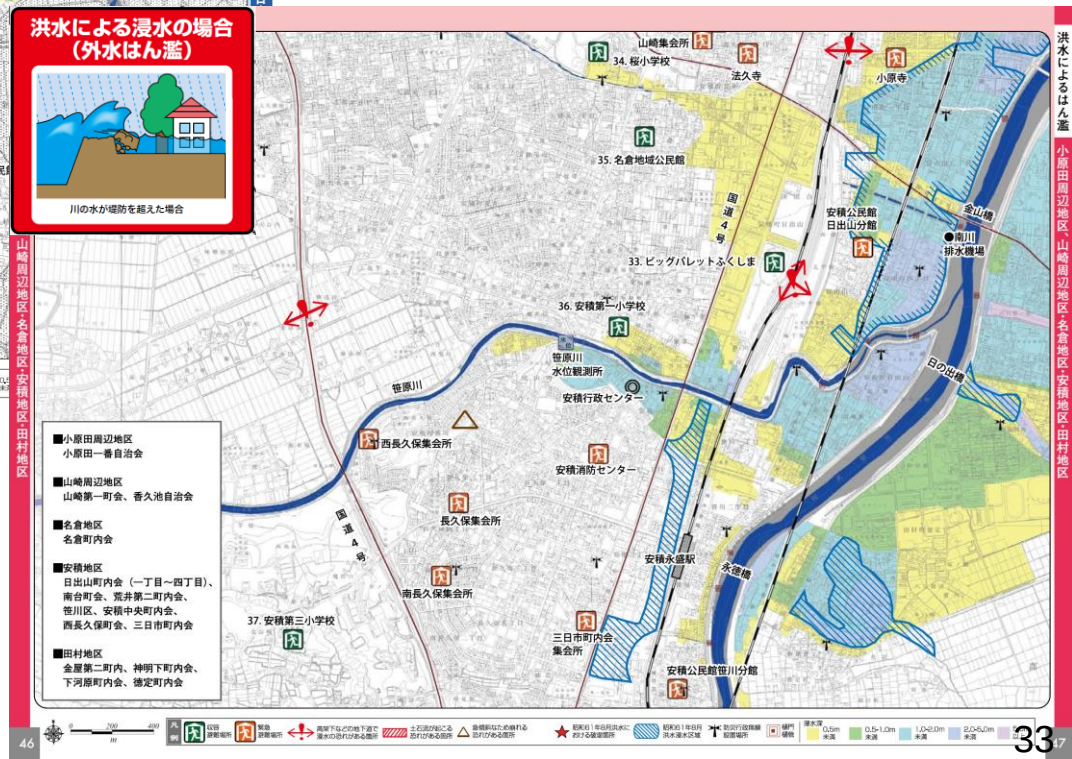
災害リスクのある地域（網掛け・色塗り箇所）を居住誘導地域から除外

②減災型都市計画の展開

○ 支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成

【河川のはん濫（外水）・内水それぞれのハザードマップの作成（郡山市の例）】

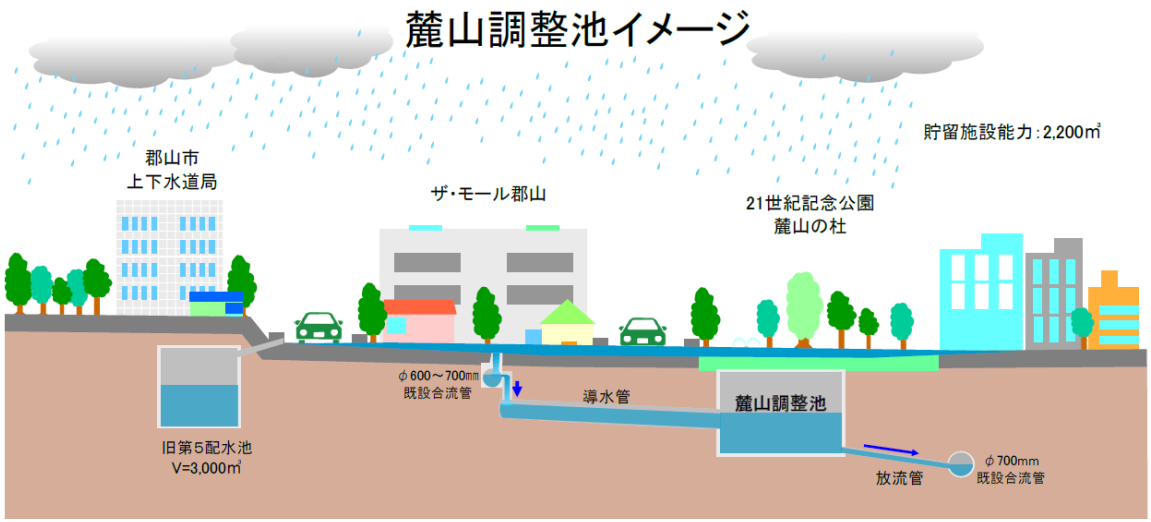




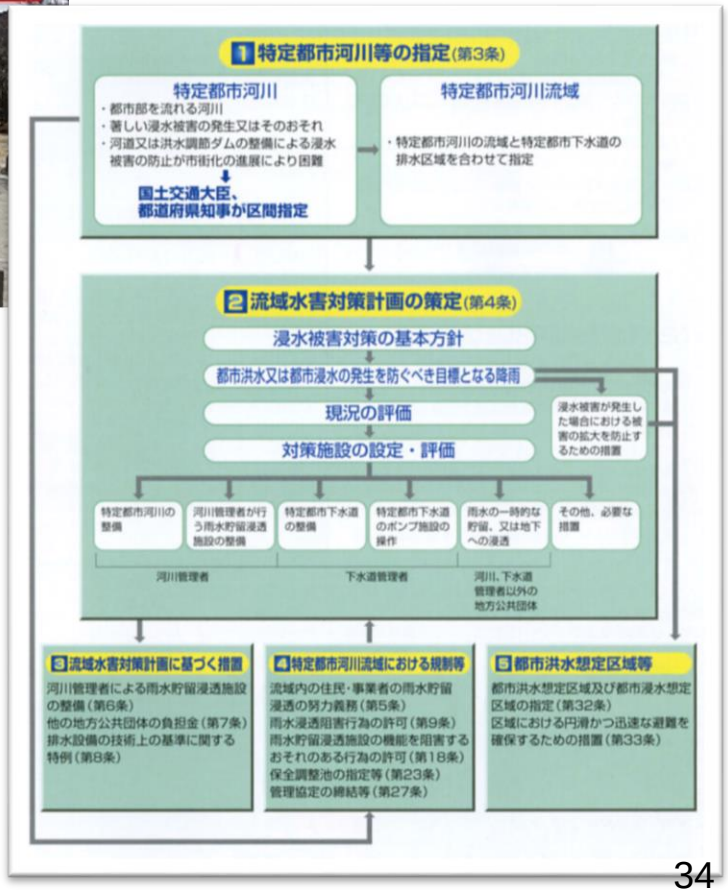
②減災型都市計画の展開

○「特定都市河川」制度に準じた流域対策（例:雨水貯留施設等）

【下水道事業による雨水貯留施設の整備（郡山市・麓山調整池）】



【参考】「特定都市河川」制度の概要



②減災型都市計画の展開

○ 高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定

【災害危険区域の指定による土地利用規制のイメージ】

浸水頻度が高い地域については建築基準法に基づく「災害危険区域」を指定し土地利用を規制

【二本松市内の事例（二本松・安達地区）】

【伊達市内の事例（梁川地区）】

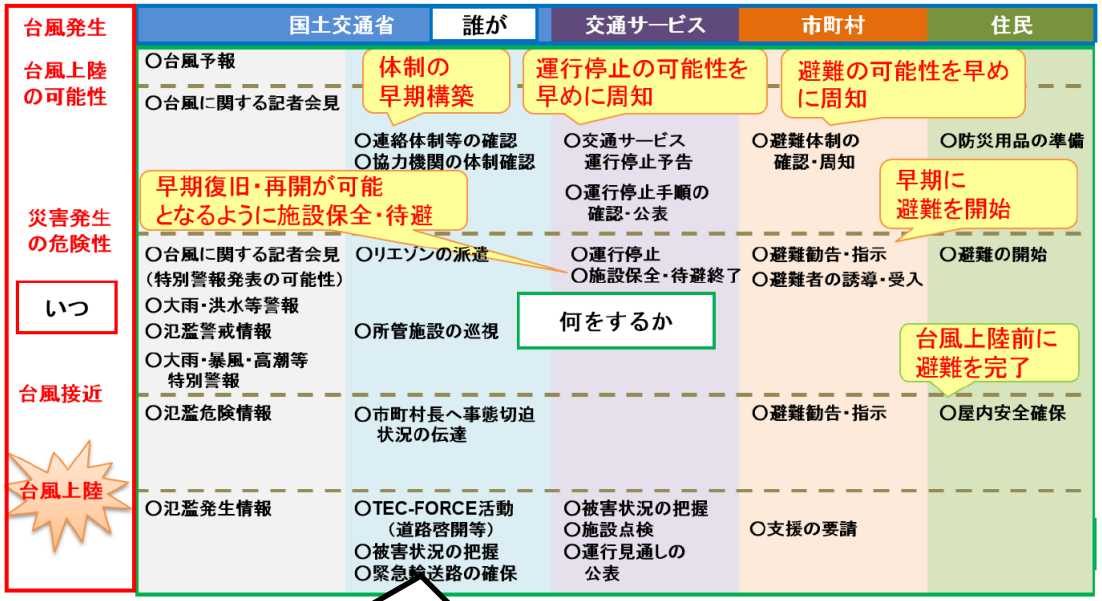
阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

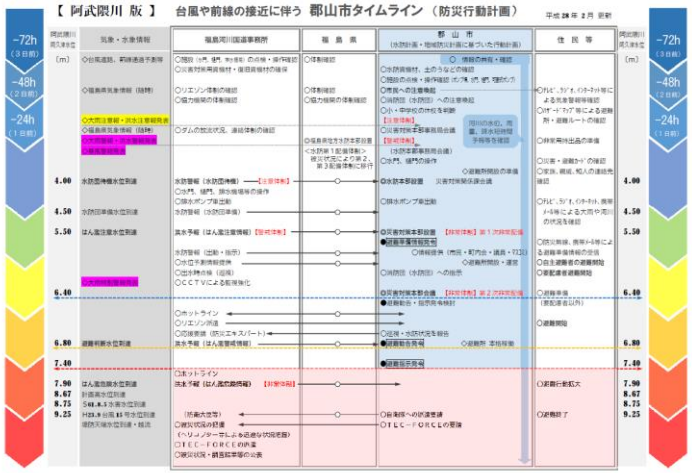
○ 支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良

【タイムライン（防災行動計画）のイメージ（簡易版は全市町村作成済み）】



【福島市の洪水タイムライン（簡易版）】

【郡山市の洪水タイムライン（簡易版）】



○ 関係機関の行動等も詳細に記載した「詳細版タイムライン」の整備
○ 中小河川や内水も考慮したタイムラインの策定
等の整備・改良を順次実施

※両市とも「詳細版」策定済。

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

○ 浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施

【町内会版タイムラインのイメージ】

紀宝町鮒田地区における台風による風水害に備えた事前防災行動計画（タイムライン）概要版　ver.20171213

レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
目安時間又は状況	台風最接近又は上陸の３日前	台風最接近又は上陸の2日前	台風最接近又は上陸の1日～12時間前又は暗くなるまでに	台風最接近又は上陸の6時間前	0時間
必要な情報	・最新の台風に関する情報やニュース	・最新の台風に関する情報やニュース ・熊野川・相野谷川上流部の雨量に関する情報 ・ダム水位（風屋・池原）や放流量（二津野・小森） ・潮位時間（満潮・干潮）	・最新の台風に関する情報やニュース ・熊野川・相野谷川上流部の雨量に関する情報 ・ダム水位（風屋・池原）や放流量（二津野・小森） ・相野谷川の河川水位情報 ・潮位時間（満潮・干潮）	・最新の台風に関する情報やニュース ・熊野川・相野谷川上流部の雨量に関する情報 ・ダム水位（風屋・池原）や放流量（二津野・小森） ・相野谷川の河川水位情報 ・潮位時間（満潮・干潮）	
行動・避難する基準	【行動基準】 ・５～３日後の台風の予想円が熊野地域に入っているとき。	【行動基準】 ・２日後の台風の予想円が熊野地域に入っているとき。	【避難開始基準】 ・三重県南部、和歌山県南部で24時間総雨量が400mm以上の予想 ・桐原雨量観測所で50mm以上の雨が2時間降った場合 ・高岡水位4.19mに到達	【避難勧告の基準】 ・避難勧告：高岡水位5.23mに到達 ：土砂災害警戒情報	【避難指示の基準】 ・避難指示：高岡水位6.19mに到達
自主避難ができる人 地区内避難場所利用者	【事前準備】 ・家庭の台風対策の実施 ・台風情報を取得する ・非常持ち出し品、常用薬の準備 ・家財・車両・農機具等の個人財産を守る準備 ・自宅周辺の排水溝や樋にごみがつまっていないか等点検する		・地区の避難場所（牛鼻神社）への避難の実施	全住民の避難の完了	
自主避難ができる人 地区外避難者			・地区外への避難の実施、避難したことを自主防災会に連絡		
「見守りたい」名簿登録者 避難支援が必要な人			・地区の避難場所（牛鼻神社）への避難の実施		
「見守りたい」名簿登録者 福祉避難所へ避難する人		・福祉避難所への避難を依頼（町へ）	・福祉避難所への避難の実施		
自治会 自主防災組織	・伝達、通信手段の動作確認 地区防災行政無線 簡易デジタル無線機	・避難所開設時刻の調整と伝達 ・避難所備蓄品の確認 ・避難を支援する人への事前予告	・避難基準となる情報の入手（雨量、水位） ・地区の避難場所の開設と運営 ・自主避難の判断と地区への呼びかけ ・避難行動要支援者の支援の実施	・避難勧告・指示の伝達し、自分自身も避難する ・避難状況の把握と共有	避難完了
自治会 自主防災組織	・避難行動要支援者名簿の確認 ・避難行動要支援者の状態確認、支援状況確認 ・避難行動要支援者の情報共有	・地域内の状況把握と情報共有			
民生委員	・避難行動要支援者に注意喚起	・避難行動要支援者への避難所開設時刻の伝達及び支援		・避難行動要支援者への支援を完了後、自身も避難を実施	避難完了
消防団		・消防団出動	・地域内の状況把握と情報共有	広報車による避難勧告・指示の伝達	撤退完了
通園めだか	・台風の情報を取得する ・台風対策の準備	・休園措置（判断・連絡・施設備品等の退避作業）			
役場	・町タイムライン始動開始について自主防災組織に連絡	・消防団出動要請	・福祉避難所への避難する避難行動要支援者の調整・支援	・避難勧告・指示の発表と周知 ・避難状況の把握と共有	

※自分の命は、自分で守る。自分自身で避難できない場合は、家族や地域に協力してもらう。　避難勧告等が出ていなくても危険を感じたら、即避難する。事前の準備、早めの行動に心がける。

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

○ マイ・タイムラインにおける「住民一人ひとりのタイムライン」の普及・促進の実施

マイ・タイムラインとは、防災情報を元に住民一人ひとりが自分自身の家庭環境に適した標準的な防災行動（避難計画）の事であり、家庭版タイムラインといえるものです。

【マイ・タイムラインの普及・促進のイメージ】

〔岩手県平泉町で実施された水防災ワークショップの例〕

ワークショップにて、災害時に避難誘導のキーマンとなる区長、自主防会長、消防団、学校関係者などを対象に自分自身の避難のタイミングと避難経路を考えた「マイ・タイムライン」を作成し、地域防災力の向上を図る。

区長、自主防会長、消防団、学校関係者などが、各地区、町内会、学校に持ち帰り、会合等で地域住民や学校での防災教育等により普及・促進。

【マイ・タイムライン作成ツールとして「逃げキッド」の例】

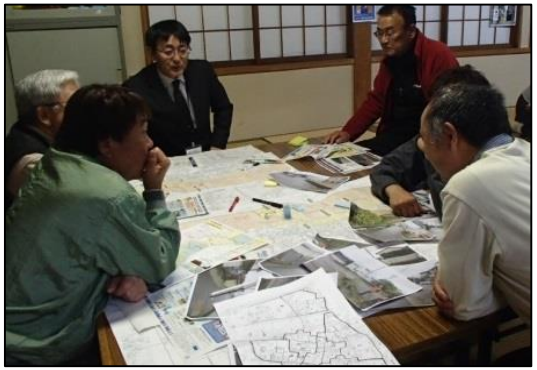
一般財団法人河川情報センター
逃げキッドのダウンロード
http://www.river.or.jp/jigyo/my-timeline_download.html

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

○ まるごとまちごとハザードマップにおける「地域住民への洪水情報」の普及

まるごとまちごとハザードマップとは、実際に「洪水ハザードマップ」の情報を、まちなかに表示するもので、浸水エリア、浸水の深さ、避難所までのルートを把握し、「想定浸水深プレート」を設置することで、地域**住民の防災意識を高める**ものです。

【山形県長井市で実施された「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組み事例】



地区会による検討、危険箇所等の書き出し

まち歩き（避難ルート、危険箇所の確認）

避難ルートの確認・決定

必要に応じて見直し

電柱などに浸水の深さ、避難ルートの案内看板を設置

地域住民へ防災意識の啓発

- 日常時 地域の洪水意識向上 洪水を知る
- 日常時 避難場所、避難の学習 避難を知る
- 発災時 判断のための情報

→ 地域住民の安全でスムーズな避難

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

○ 危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築

太陽電池・バッテリーにより無給電で稼動

危機管理型水位計設置状況（郡山市西田町鬼生田地先（阿武隈川））

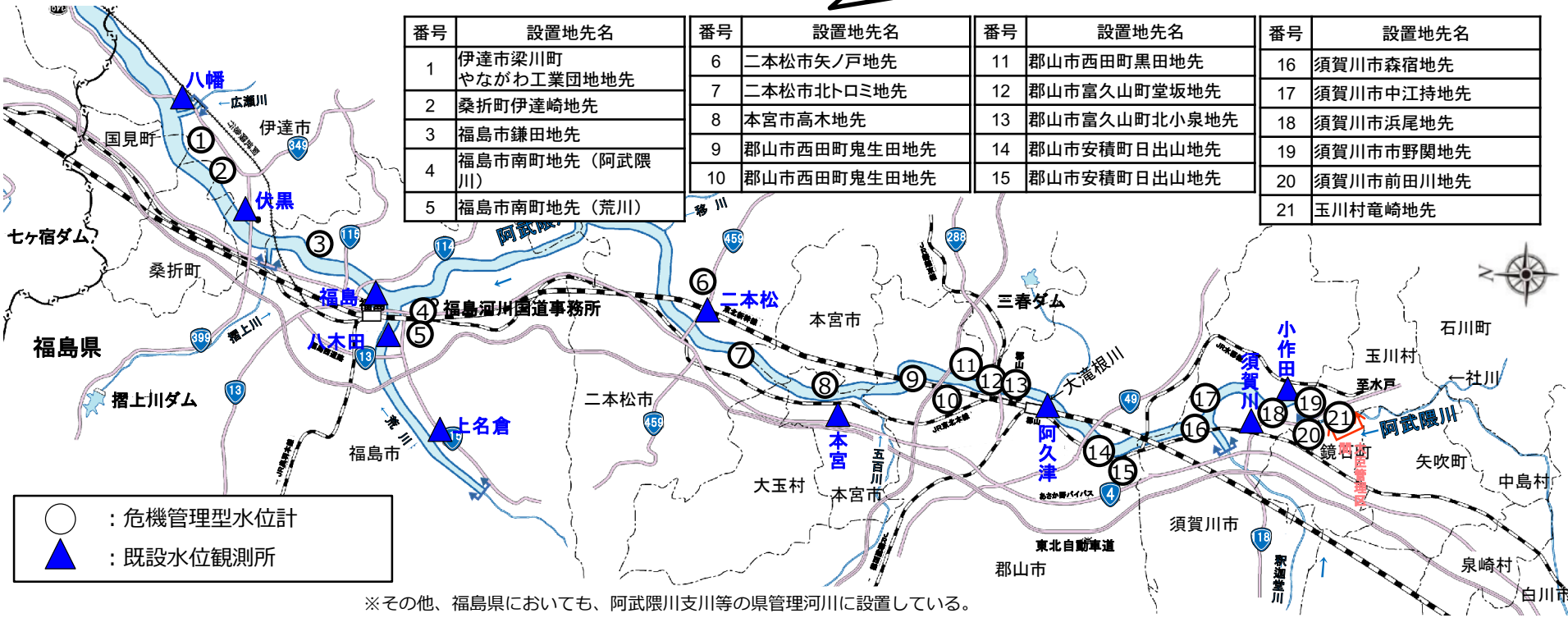
○ 阿武隈川・荒川（国管理区間）に21箇所の危機管理型水位計を設置済み（県管理河川のうち本協議会構成市町村に計81箇所設置済み）
○ 今後、危機管理型水位計の水位に対応した地区ごとの避難体制を順次検討・構築

番号	設置地先名
1	伊達市梁川町 やながわ工業団地地先
2	桑折町伊達崎地先
3	福島市鎌田地先
4	福島市南町地先（阿武隈川）
5	福島市南町地先（荒川）

番号	設置地先名
6	二本松市矢ノ戸地先
7	二本松市北トロミ地先
8	本宮市高木地先
9	郡山市西田町鬼生田地先
10	郡山市西田町鬼生田地先

番号	設置地先名
11	郡山市西田町黒田地先
12	郡山市富久山町堂坂地先
13	郡山市富久山町北小泉地先
14	郡山市安積町日出山地先
15	郡山市安積町日出山地先

番号	設置地先名
16	須賀川市森宿地先
17	須賀川市中江持地先
18	須賀川市浜尾地先
19	須賀川市市野関地先
20	須賀川市前田川地先
21	玉川村竜崎地先



※その他、福島県においても、阿武隈川支川等の県管理河川に設置している。

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

○ 県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

水位周知河川追加指定予定の31河川について、早期作成・公表を目指す。あわせて、浸水想定区域図作成も、順次進める。

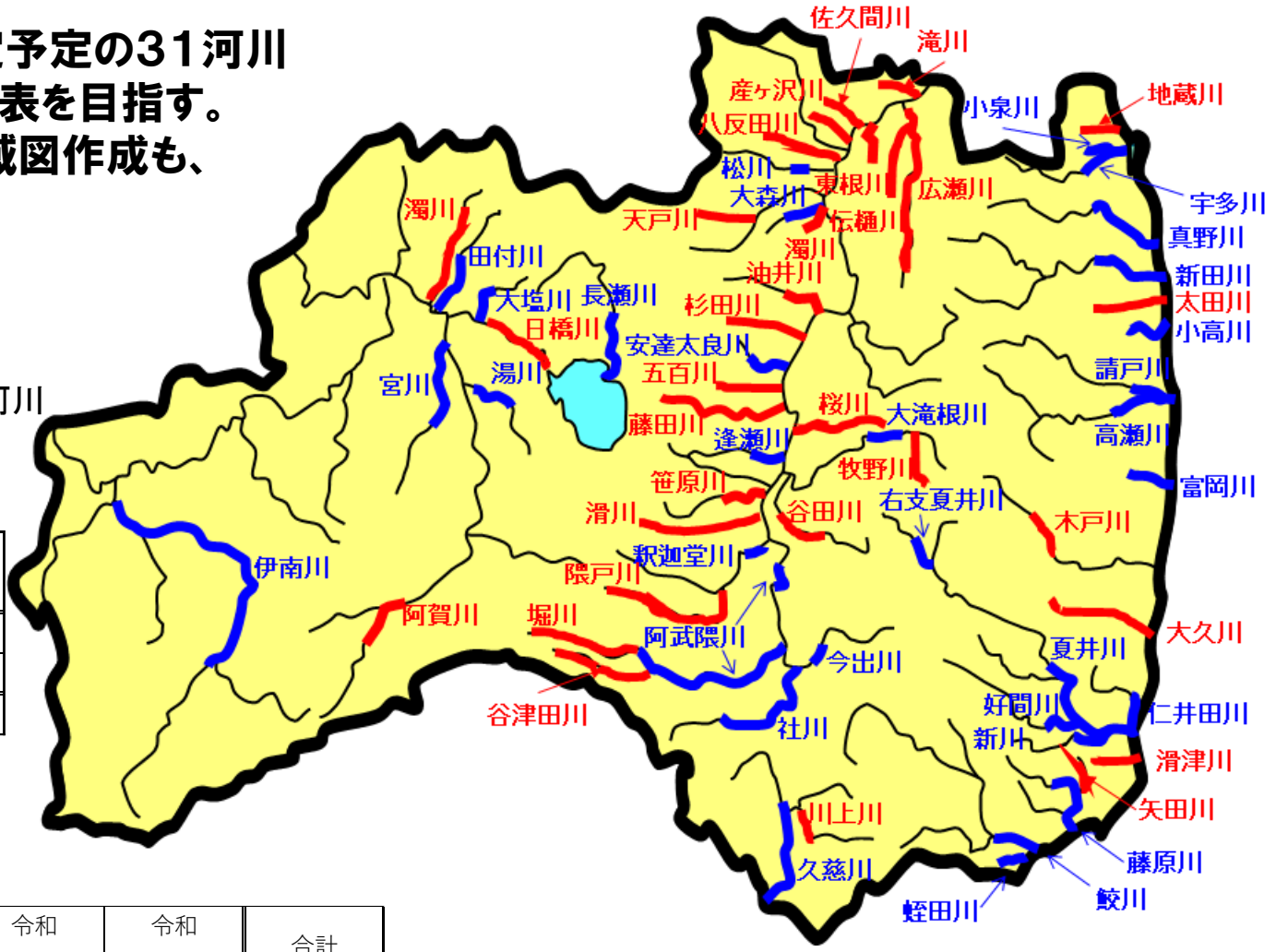
水位周知河川及び洪水予報河川指定の今後の予定

（単位：河川数）

	洪水予報河川	水位周知河川	合計
既指定	3	29	32
指定予定	0	31	31
合計	3	60	63

洪水浸水想定区域作成予定

年度	平成３０年度まで	令和元年度	令和２年度	令和３年度以降	合計
河川数	10	11	18	24	63



●水位周知河川及び洪水予報河川に指定している32河川
●今後水位周知河川に指定する予定の31河川

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

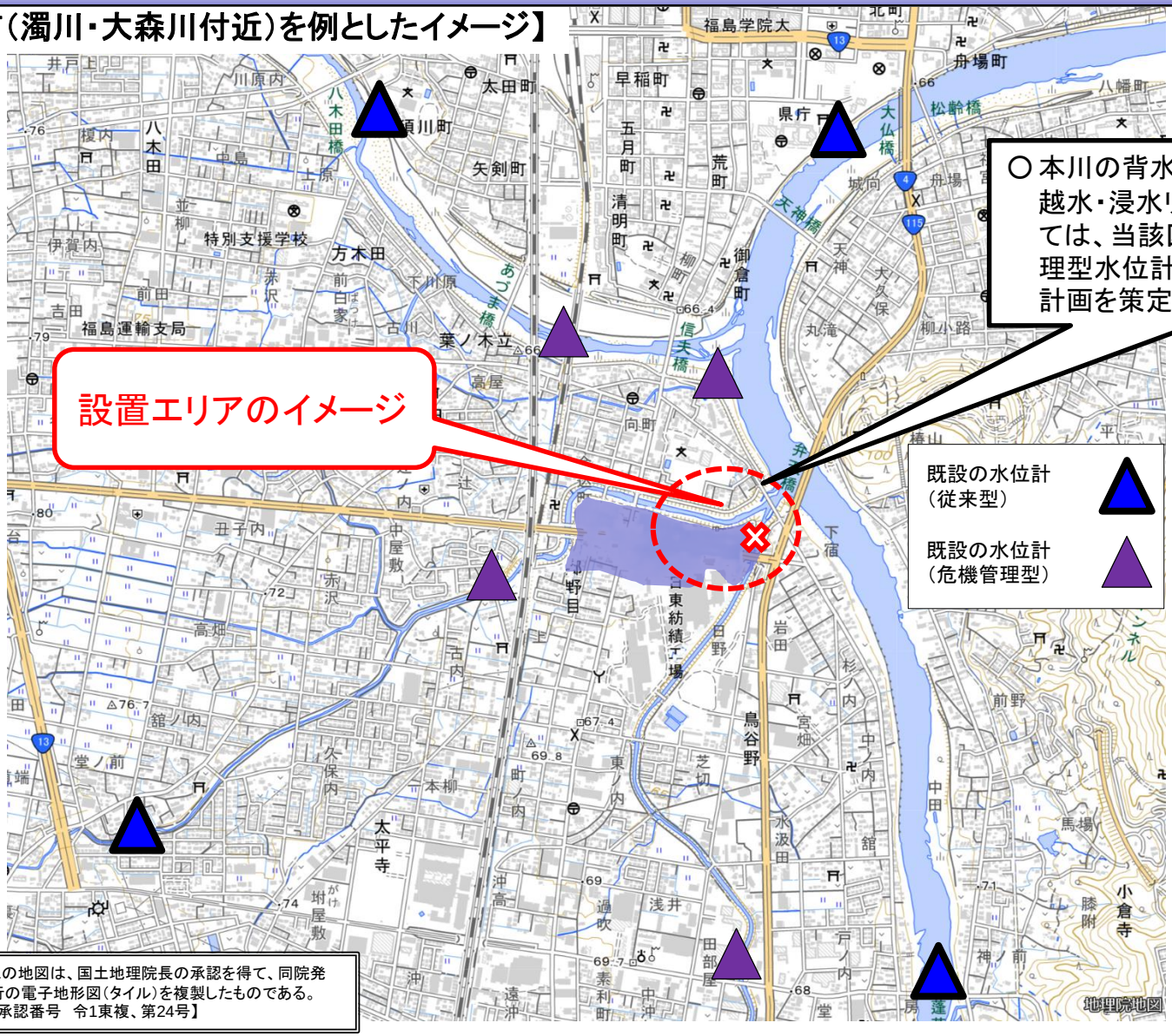
○ 本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。【承認番号　令1東複、第24号】

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

○ 本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定

【福島市（濁川・大森川付近）を例としたイメージ】



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。
【承認番号　令1東複、第24号】

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

○ ①～④以外にも地域の特性等を踏まえた各種減災対策を推進

福島市
1．減災・水防対策の推進
2．土地利用対策の推進　3．治水対策の推進
4．流域対策の推進

須賀川市
・災害時情報伝達手段の充実
・自主防災組織の設置促進と人材育成
・市都市計画マスタープランでの都市防災の取り組み
・準用河川の整備促進

伊達市
・防災専門員を採用し、防災計画等の見直しを行い、防災力強化を図る。併せて自主防災組織等の行動マニュアル等の整備を図る。
・避難等の情報を伝達するため、防災行政無線設備の強化を図る。

桑折町
・浸水想定地区における水害を想定した地区住民参加型の防災訓練を予定。
・地区住民参加による水害を想定した災害図上訓練を実施し、訓練の際ハザードマップを利用することで周知に努めた。
・新たに導入された警戒レベルについて気象台職員から説明を受け、周知に努めた。

大玉村
・地域（集落）毎に沿った防災訓練を実施し、地域住民の防災意識の向上に努める。
・同様に各地区で集会があった際に、災害毎の防災に対する備えや行動の講習を実施する。

郡山市
・準用河川の整備促進
・浸水対策に関する日本大学工学部との連携

二本松市
・自主防災組織の立ち上げと地区防災計画の策定を支援していく。
・阿武隈川と支流が合流する箇所の冠水被害の軽減策について国・県と協議していく。

本宮市
・様々な災害リスクを考慮したハザードマップの作成
・ハザードマップや詳細版タイムラインを踏まえた「地域防災計画」の大幅な見直し
・防災行政無線のデジタル化、及び難聴者用の文字放送のためのシステム改修

国見町
・各地区防災訓練実行委員会で新たに導入された警戒レベルについて町職員より導入内容について説明し、全戸にチラシ配布を実施。
・各地区防災訓練で3地区において、福島県職員を講師に気象予警報の種類、内容・災害時の避難（警戒レベルの運用）の「防災講話」を実施。
・令和元年台風第19号の災害が発生したことにより、浸水想定地区で水害を想定した住民参加型による防災訓練を予定。

玉川村
・ハザードマップを作成し村内全世帯に配布している。
・地域防災計画を作成し、避難所など指定している。

※対策プロジェクト実施期間中の実施に向けた検討を行うものや既に実施済みのものも含め記載している。

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

○ ①～④以外にも地域の特性等を踏まえた各種減災対策を推進

白石市
- 自主防災組織が約90%設置され、防災指導員の講習会を開催予定。
- 洪水ハザードマップを作成し、全戸配布予定。
- 内水ハザードマップを全戸配布している。
- 大雨を想定した防災訓練を予定。

角田市
- マイ・タイムラインについて住民への周知を強化する。
- 土のうステーションや備蓄品の整備を強化する。
- 自主防災組織との連携のあり方について検討。
- 内水排水における施設の排水能力強化について、関係機関と協議していく。

岩沼市
- 避難発令、避難所開設のタイミング、エリアについて検討。
- 住んでいる状況に応じた避難行動の周知啓発。
- 農業用ため池を活用した治水対策の実施。
- 排水機能向上について関係機関と協議していく。

蔵王町
- ハザードマップを作成し全戸配布している。
- マイ・タイムラインを作成し、全戸に配布を検討。
- 避難誘導案内板等を多言語の対応を検討。

七ヶ宿町
- 七ヶ宿ダムとの防災情報の連携。
- 河道堆積土砂等撤去を県と協議していく。

大河原町
- 自主防災組織の強化を図る。
- ハザードマップの補完資料を作成する。
- ゴムボートの購入を検討、備蓄品の整備を予定。

村田町
- 大雨を想定した住民参加型訓練を予定。
- 自主防災組織と連携して減災に努める。
- 防災指導員を育成し増員する。
- 高齢者、障がい者等を勘案した地区連絡網の整備を推進する。
- ハザードマップの更新・配布を次期出水まで整える。

柴田町
- ハザードマップ説明会を行い、マイ・タイムラインを促進・普及させる取り組みを予定。
- 排水ﾎﾟﾝﾌﾟ車の購入を検討。
- 土のうステーションを設置し、備蓄品の整備を進める。

丸森町
- 避難発令タイミング、避難所誘導など検証を行う。
- 大雨を想定した防災訓練を予定。
- 町内の内水排除について、国・県と協議していく。

亘理町
- マイ・タイムラインを促進・普及させる取り組みを予定。
- まるごとまちごとハザードマップを検討。
- 内水氾濫の履歴をハザードマップに加えることを検討。
- 状況に応じた避難発令のタイミング、エリアについて検討。

山元町
- 洪水・土砂災害ハザードマップを出水期前に配布。
- 自主防災会を通じたタイムライン説明会の実施を検討。

※対策プロジェクト実施期間中の実施に向けた検討を行うものや既に実施済みのものも含め記載している。